オリエンテーションホール　教科書ｐ５～２０

第１章　歴史の流れと地域の歴史

■単元のねらい

・身近な生活の中から歴史的的事象を発見させ、歴史とは何か、何を学ぶのかについて考えさせ、歴史を学ぶ意欲を高める
・小学校での学習の成果をもとに自分で興味あるテーマを設定し、調べ発表する。
・自分で設定したテーマを追究することで時代の移り変わりに気付かせ、時代区分をつかませる。
・身近な地域の歴史を実際に調べることを通して歴史学習の学び方を習得させ、多角的多面的な思考力判断力や表現力を身につける

■章の概説

▶新しい内容

この教科書は、生徒が自分で学んでいけるようないろいろな工夫がされています。小学校から中学校に入って初めて歴史を学ぶ生徒たちに、少しでも興味深く、またどう学んだらいいかを身に付ける場所として設定されたのがこの章です。

歴史を初めて本格的に学ぶ中学生に対してここでしっかり押さえたいことは、歴史はあらかじめ出来上がっている通史をダラダラと暗記するものではないと言うことを知らせ、多角的・多面的な豊かな歴史のおもしろさに触れて、これから２年間の学びの世界の奥の深さおもしろさに触れさせることです。

▶ 学びのオリエンテーション

今まで、歴史の授業はいきなり通史から始まっていました。生徒はいわば一方的に与えられるだけでした

この新しい教科書では、歴史を生徒自らが内発的な動機を持って、学問的に正しいやり方で自分から学ぶという教科観に立っています。身近なことから歴史に気がつき、興味を抱き、自分で調べることを通して歴史の学び方を身に付けることが、何よりも大切であると考えています。この章は、今までの教科書にはなかった学びの導入のための内容です。教科書全体が歴史博物館のという構成になっています。この章は、その博物館のオリエンテーションホールという設定です。

▶歴史の流れに気づく･･･「おもしろ歴史発見」

新指導要領の歴史内容ア「我が国の歴史を関心ある主題でまとめる作業的学習を通して歴史の移り変わりに気づかせ、時代のまとまりをつかむ」に対応する内容です。

卒業アルバムを入り口として、すべてのものに変化と原因があることに気づかせます。そして、生徒自身が身近な興味あるものを調べ、それを持ち寄ってまとめることで「原始古代・中世・近世・近現代」という４つの時代のまとまりと流れに気づくという構成になっています。ですから、教科書で取り上げた食事・服装・人形というのはあくまでも例です。

この教科書は生徒の主体的学習のために豊富な資料を用意し、教科書を使って自分で学習を進めるられるようをなっています。しかし、取り上げた題材にこだわらず、先生方ご自身で題材を用意されても十分お手伝いできる内容になっています。

その場合、資料を扱うときの着目点、調べる資料そのものとして、またまとめ方の具体例としてこの章の各ページをご利用ください。

▶学び方を学ぶ･･･「身近な地域を調べてみよう」

新指導要領の歴史内容イ　「地域への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりの中で我が国の歴史を理解させるとともに歴史の学び方を身につける」に対応します。

特に、我が国の歴史は通史部分で扱うとことになりますから、ここでは「歴史の学び方を身につける」ことを中心にしています。指導要領の歴史目標４「様々な資料を活用して歴史的事象を多面的多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」ことが歴史の学び方（スキル学習）です。地域の歴史を題材に、歴史学は資料をどう利用し、どう調べ、考え、表現するかをこの単元を使を使って学ばせてください。

なお、第１節に続いて第２節を学ぶやり方だけでなく、通史の中で各地域の取り上げやすい教材の時代で集中的に扱うことも可能です。

▽この章の流れ

節	第１節　おもしろ歴史発見					
時	第１時	第２時	第３時	第４時	第５時	第６時
ﾃｰﾏ	卒業ｱﾙﾊﾞﾑを見てみよ	身近なものの歴史を調べよう①	歴史を調べよう②自己追究	歴史を調べよう①追究の深化	大きな時代をとらえよう①	大きな時代の流れとらえよう②
ねらい	変化するもの：歴史的事象気づく	食事を例に時代変化を調べてみる	自分のテーマで調べる	調べたことを深め、まとめていく	自己追究を学級でまとめ、大年表をつくる	話し合って時代のまとまりに気がつく
関心意欲	歴史に興味を持つことができる	積極的に調べることができる	自分のテーマを意欲的に調べる	友達と交流し追究を深められる	積極的に調べまとめることができる	
思考力		歴史的な前後関係、因果関係をつかめる		歴史的な前後関係因果関係をつかめる	多くの事実の中から大きなまとまりに気づく	４つの時代区分が指摘できる
技能表現		教科書を使う簡単な調べ方を身につける	教科書の資料を探せる		自己追究を全体のまとめに入れる	４時代区分を使って歴史の流れを説明できる
知識理解						４時代区分・西暦・～時代を説明できる

■扉の解説

オリエンテーションホールの構成

（教科書Ｐ５・扉の縮刷）

キャラクターのセリフに注目。この章のねらいが語られています。

歴史の館の４つの展示室が、各時代の通史になっています。ここはそこに入っていく前の導入の部屋になっています。展示の見出しが第１章の単元の見出しです。

第２節　身近な歴史を調べてみよう　＊地理分野「身近な地域の調査」と融合することも効果的						
時	第７時	第８時	第９時	第10時	第11時	第12時
ﾃｰﾏ	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	地域に歴史を見つける	調べ方①	調べ方②	実際に調べる	まとめる 発表する
ねらい	身近な地域を学ぶ楽しさを知る	地域の歴史の着目点を知り、テーマをつくる	図書館・博物館ｲﾝﾀｰﾈｯﾄの利用の仕方を知る	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸの仕方を知る。	歴史調査活動を行う	まとめ方・発表の仕方を知る
関心		地域の歴史調査の準備ができる			自分の力で調べていくことができる	積極的に発表できる
思考	歴史的事象が背景にある地域の事物に気がつくことができる				地域の歴史を通して多角的多面的に歴史をとらえることができる	
資料			地図の見方やフィールドワークの仕方を身につけることができる		実際に調べ、まとめることで学んだ力を実際に使える	
知識						地域の歴史の理解を深められる。

1　教科書ｐ６～７　第１章　第１節　おもしろ歴史発見　１．歴史って何だろう

本時のねらい　身近なものの中に歴史があることを気づかせ、歴史を学ぶ意欲を高める
時代比較の視点、年表の活用の仕方を紹介し時代の移り変わりに気づかせる。（１時間）

教科書のねらいと活用の仕方　▶歴史学習全体の導入として教科書のアルバム写真を利用する

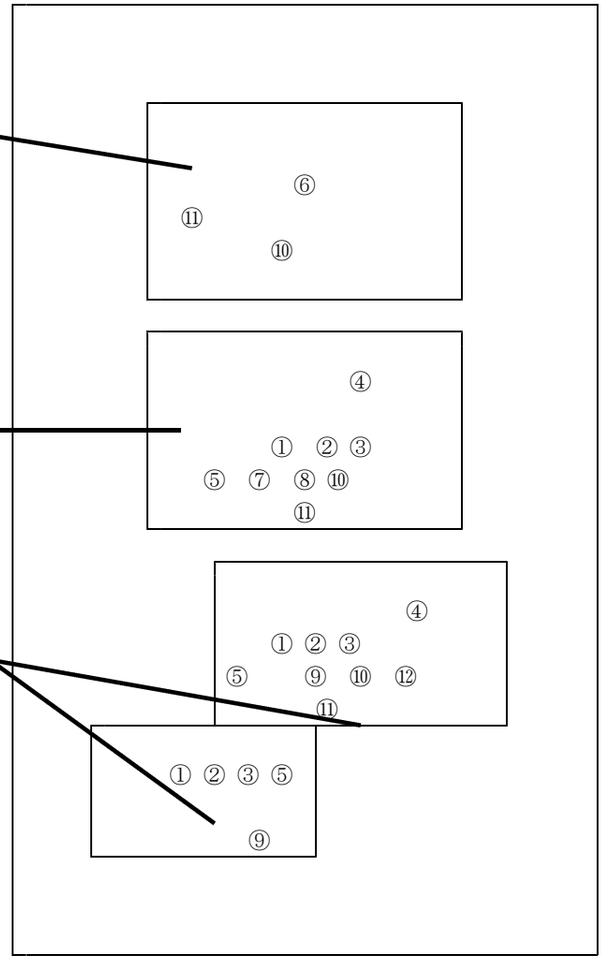
導入　**▶写真で時代変化にふれる**　15 分

ねらい　３つの時代の写真を比較することで、気ついたことを何でも自由に上げさせ、生徒がふだん接しているものが歴史的に変化するものであることに気づかせる

発　問　写真を見て気がついたことをどんどんあげてごらん

作　業　気がついたことをノートにメモする
周囲の人と気がついたことを発表しあう
全体で気がついたことを板書し、まとめていく

留意点　生徒の実際の卒業アルバムは、生徒指導（小学校時の人間関係を忘れて新しく出発したい生徒もあると思われる）ので、避けた方がよい。
　３０年前（教師自身の卒業アルバム）や６０年前（戦前の国民学校）は、できるだけ実物を用意したい。教師と生徒の人間関係を親密にし、また地域の歴史を知る上で大切な機会になる
　校区が新しい地域で、昔の学校がないところは、ないということ自体が生徒に歴史意識を持たせるきっかけになる。
教科書の卒業アルバムの写真は、あくまでも一つの例で、教師自身が昔の遊び・食事・流行歌など別の具体例を用意することがさらに授業をおもしろくさせる。ここではできるだけ多くの視点が設定できるような導入資料がよい。



その他の導入例

１アルバムの代わりに地域の時代ごとの風景写真を用意し比較する。変化について気がついたことを自由に上げさせる。
２小学校で学んだ歴史上の人物（教科書の表扉の人物）に一人一人になりきって、グランドに１０メートル１００年の年表（２００ｍの直線）を書き、その場所にたってみる。感じたことを自由に発表する
３アンティークなもの（古い時計）などを用意し、現在のものと比較する

写真の着目点・連想したいこと（→指導書ｐ　　）

①一クラスの人数
②服装・髪型・靴
③身長・体重
④校舎
⑤男女別の並び
⑥修学旅行の有無・行き先
⑦卒業アルバムの有無･価格
⑧写真がカラーか白黒か
⑨写真の表情が硬いか、
⑩座る立つの姿勢
⑪先生の雰囲気
⑫先生のひげ
⑬卒業後の進路
⑭給食・弁当
⑮授業の内容
⑯登下校の方法

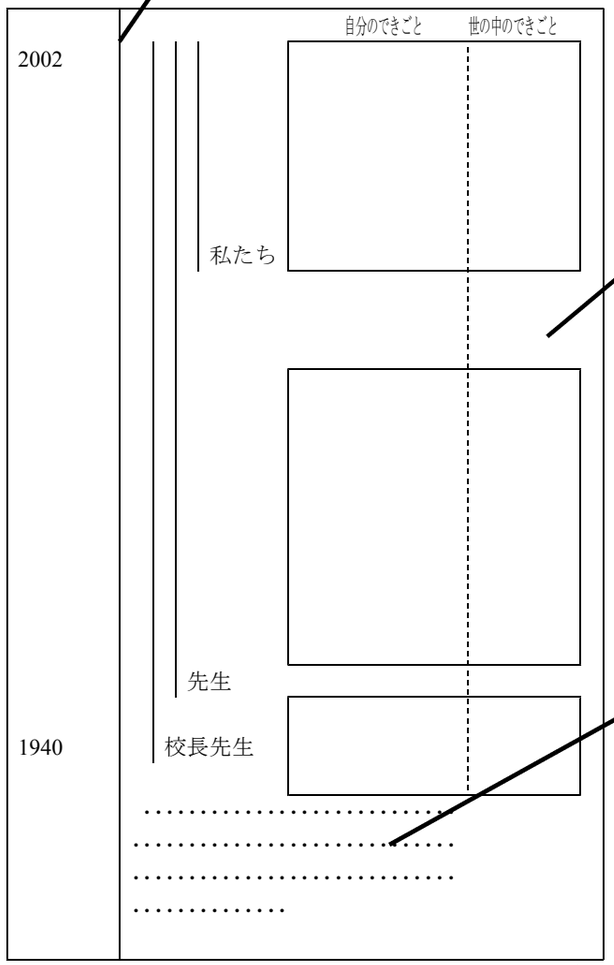
展開１　**▶変化を時系列で把握する**　10 分

ねらい　３人の写真で気がついた事象の変化を、年表で時間の変化として把握する。

発　問　ワークシートに３人の生きてきた時間と思い出のできごとを記入してごらん。何がわかるかな

作　業　ワークシートに時間を記入し、３人のできごとを書き出す。「私たち」は自分の思い出を記入する。

留意点　先生・校長はそれぞれ実際の人が語ってもいいし、無理ならばその年代の人の思い出をあらかじめ別紙資料などとしてまとめておき教師から伝える。



展開２　**▶ 時代背景を調べる**　15 分

ねらい　年表を使って時代背景を調べることから、年表の使い方にふれ、個人的な体験を大きな時代の流れの中で理解する。

発　問　教科書の年表や本文を使って３人の生きた時代に起こった出来事を調べてごらん

作　業　ワークシート（または黒板の年表）に、その時代に起こった事件を教科書・年表から調べたものを書き出してまとめる

留意点　班でお互いに調べたことを大きな紙の上に移してもよい。感じたことを自由に発言する中で作業を進めさせたい。時代背景を教師が補説する

まとめ　**▶ 歴史とは何かをまとめる**　10 分

ねらい　個人的な事象の変化の背景にある大きな時代の変化に気がつき、自分の興味のある課題を一つ決めてこれから追究していくという課題意識を持つ。

発　問　①３人の時代を見て気がついたことを話し合ってあげてごらん 。
②これから自分が調べていくもののテーマを決めよう

作　業　①時代の変化で気がついたことを発表する
　②話し合いを通して自分が興味のあるテーマを決め、ワークシートに記入し、今後の調べる学習の準備を考える

留意点　歴史が通史の暗記でないことをしっかり押さえ、興味関心を引き出す。

（ワークシート例）

評価の具体例

関心意欲	歴史学習全体に興味を持てたか（ワークシートの感想で評価）
思考判断	時代の変化に気づいたか
技能表現	ワークシートに工夫してまとめられたか
知識理解	

板書例　あて歴史とは何だろう

気づいたこと　　時代の違いと生き方の違い

人数・ 服装
ラーじゃない
髪
長や顔つき
舎が違う
修学旅行
の行き先

調べたいこと

自分･･･今
先生･･･３０年前
校長先生･･･６０年前

何でも変化する
変化には理由がある
原因と結果を考えてよりよい
将来をつくる

2 教科書ｐ 8~9 第１章　第１節 おもしろ歴史発見　２．身近なものの歴史を調べよう①

本時のねらい　食事を例に歴史的変化のようすを学び、教科書や年表などの資料を使って歴史的変化とその背景を調べ、それをふまえて自分の調べたいテーマを決めることができる。

教科書のねらいと活用の仕方　▶本時を含めて４時間の調べ学習の導入として、教科書の資料を活用する
本時を１時間としてもいいし、0.5 時として次の第 3･4 時とあわせてもよい。
ｐ８～１１の教科書はあくまでも資料例として使う。

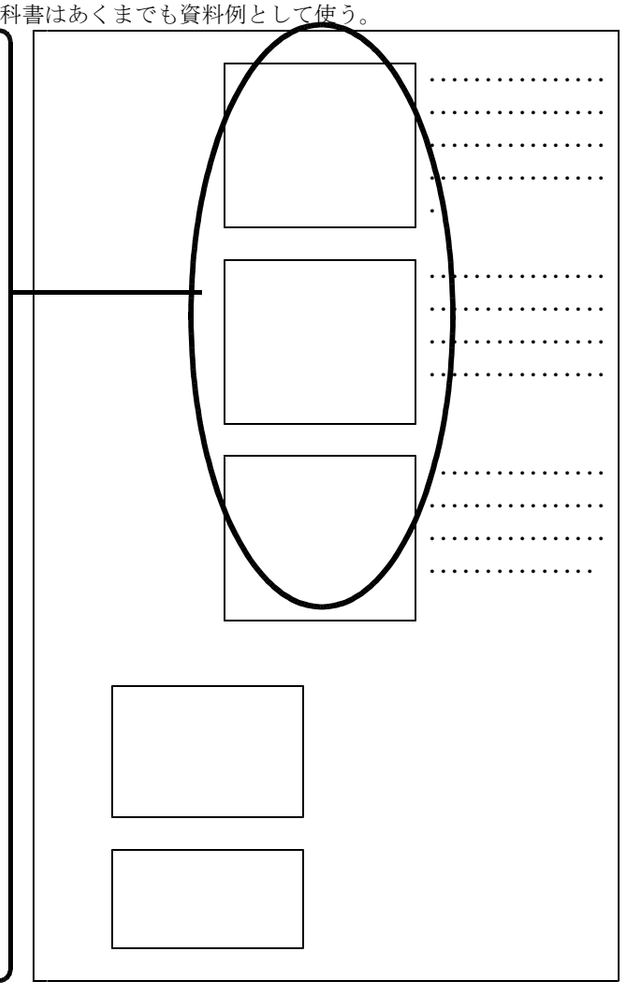
導入　▶ **給食をきっかけに３つの時代の食事を調べる**　15 分

ねらい
前時の「歴史となはにか」を受けて、今後４時間使って自分の興味のあるテーマで歴史的変化を調べるという積極的意欲を持たせ、具体的に何をどのように調べようという見通しを持たせる。そのために、食事の変化について親しみと驚きを教室中に持たせたい。歴史の授業は楽しいという雰囲気を作る。

発　問
①今日の給食は何だろう。好きなメニューをあげてごらん
②前回、歴史とは何かで３０年前・６０年前との違いを学んだことをふまえて、給食はどうだったか調べてみよう。

作　業
①最初教科書は閉じておく。食べ物について自由に楽しく話し合う。
②前回の内容を思い出し、３０年前、６０年前の食事について教科書を使って調べる。
③さらに食事の違いの背景を教科書本文を使って調べる

留意点
食べ物はどんな生徒も自分の好みがある。そのこだわりを大切にし、自分なりの立場から教材に関わることを大切にするよう助言する。
今後の歴史学習全体に対して主体的に関われるかどうかの分かれ道である。

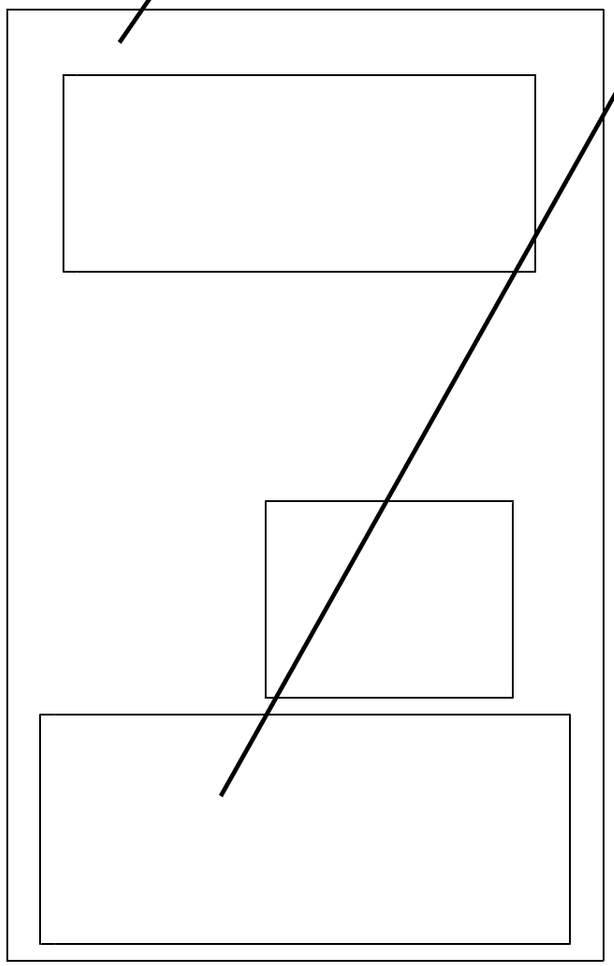


その他の導入例　**食事はあくまでも例であるので食事のほかに、人形（遊び）・服装から始めてもよい。また、教師自身が具体的に用意できるモノがあれば、それを使いたい。**
例えば
１．やじり（石器）と現代の道具
２．むかしの教科書・雑誌と現在のもの
３．時計の歴史（時をどう把握したか）
ただし、教科書からその歴史が調べられる程度のモノがよい。むろん教師の話で説明する方法もある。

写真資料の着目点･連想したいこと（→指導書ｐ　）
①給食の形（ランチ皿など）
②栄養素のバランスの変化
③カロリー
④食材の原産地
⑤調理の仕方
⑥和食と洋食
⑦主食と副食のバランス
⑧食材をつくる人
⑨流通の仕方
⑩誰が調理したか
⑪食器の素材と形
⑫食べる姿勢・隊形
⑬食べる場所
⑭健康状態
⑮デザートの有無
⑯片づけ
⑰食事の回数

展開１　▶ **もっと昔からの変化を調べ、変化の背景となった歴史の大きな動きに気がつかせる**　10 分

ねらい　食事の変化を、前時より長い期間(100 年前･500 年前･1200 年前･3000 年前)でとらえさせ、歴史的変化への驚きを持たせるとともに変化の背景を調べようという興味を持たせる。。
発　問　もっと昔の食事はどうか教科書で調べてごらん
作　業　ワークシートに食事の変化とその背景を教科書で調べて記入する
留意点　食事の変化そのものよりもその背景となる大きな歴史に気がつくようにする



展開２　▶**わかったことをまとめる** 15 分

ねらい　食事の変化について自分の考えをまとめる。教科書のまとめ文と比較し、背景となった大きな歴史の変化まで考えなければいけないことに気がつかせる。
発　問　①（教科書を閉じて）食事の変化を調べてみてわかったこと、考えたことをまとめてごらん。
②まとめの例文を読んで、自分と比べよう。
作　業　食事の変化についてわかったこと・考えたことをワークシートにまとめる
留意点　まとめの例文は、あくまでも参考資料として使う。生徒自身のまとめを発表し、背景となる歴史変化への気づきを練り上げていく授業でありたい。この例文を使わずに、この内容まで到達できるのがベストである。

まとめ　▶**自分の調べたいテーマを決める** 10 分

ねらい　食事の学習例を参考に、今後の 3 時間で自分で調べたいテーマを決める
発　問　自分の調べたいテーマを決めてごらん
作　業　自分の興味のあることを決めてワークシートに記入し、調べ始める
留意点　あくまでも、歴史全体の導入として、４「時代のまとまりをつかむ」(→指導書ｐ　)のための作業であるので、本格的な追究でなくてよい。どういう形でまとめるかあらかじめ生徒に知らせておく。ただし、そのテーマの時代変化の背景にどんな大きな歴史変化があったかを調べる視点は大切であると指摘しておく。

評価の具体例

関心意欲	食事の変化を積極的に調べ、その経験を元に自分のテーマを決められる
思考判断	食事の変化について歴史的な前後関係、因果関係をつかめる
技能表現	教科書を使う簡単な調べ方を身につけ、整理できる
知識理解	

板書例　めあて食事の変化を調べ自分のﾃｰﾏを決めよう

３人の時代の食事の変化→もっと前からの変化
今　30 年前　60 年前　　100　500　　1200　　3000　年前
変化　給食←日の丸弁当←　洋食←　和食←貴族と民衆←自然食
背景　高度成長　戦争　明治維新　律令国家　狩猟の生活　室町時代　民衆の成長
これから調べるテーマ

3 教科書 p10~11 第１章第１節 おもしろ歴史発見 ３．身近なものの歴史を調べよう②その１

本時のねらい　食事で歴史的変化のようすを学んだことをふまえて、自分の興味のあるものについて教科書や年表などの資料を使って歴史的変化とその背景を調べはじめることができる。

教科書のねらいと活用の仕方　▶自分の選んだテーマで歴史的変化を２時間で調べまとめる。ｐ 10 ～ 11 は調べる資料・調べ方とまとめ方の例として活用する。

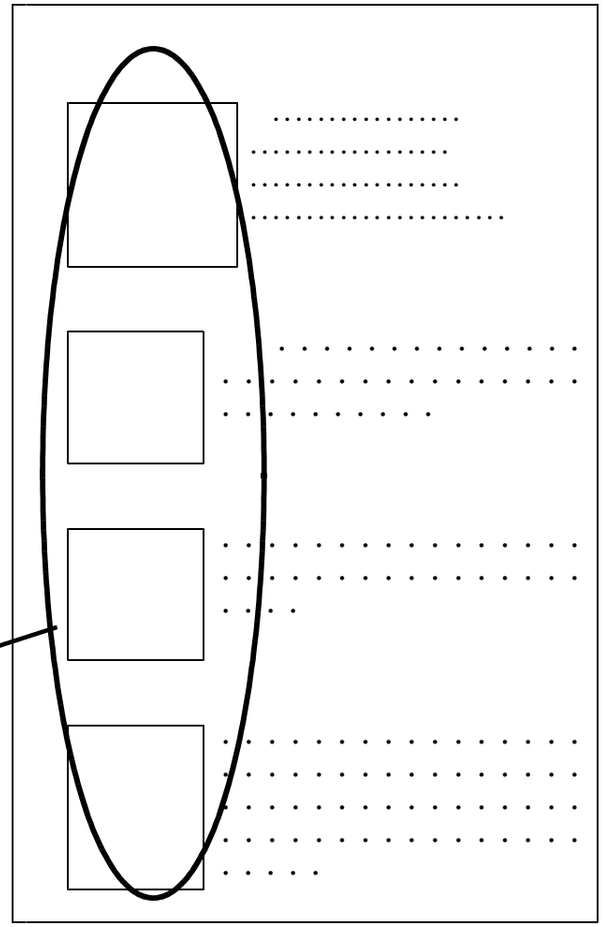
１時間目の導入　**▶動機付け**　最初の５分

ねらい
前時の「食事の変化」を事例学習を受けて、自分の興味のあるテーマで調べることを確認し、積極的意欲を持たせ、具体的な見通しを持たせる。さあ調べようという雰囲気をつくる。

発　問
①あなたは何を調べるの？教えてください
②教科書にたくさん資料があるので、自分のテーマで調べてください。
③ p11 はまとめ方の例です。

作　業
①最初教科書は閉じておく。お互いのテーマを聞き、自分のテーマも発表する。
②教科書を見て調べたいところやまとめ方を考える
③調べはじめる

留意点
教師が何か実物を用意し、（人形・靴など）歴史の世界に入るぞという雰囲気を作りたい。実物がない場合教科書を利用する。Ｐ 10 ～ 11 だけでなく他の多くのカラーページが資料になる。

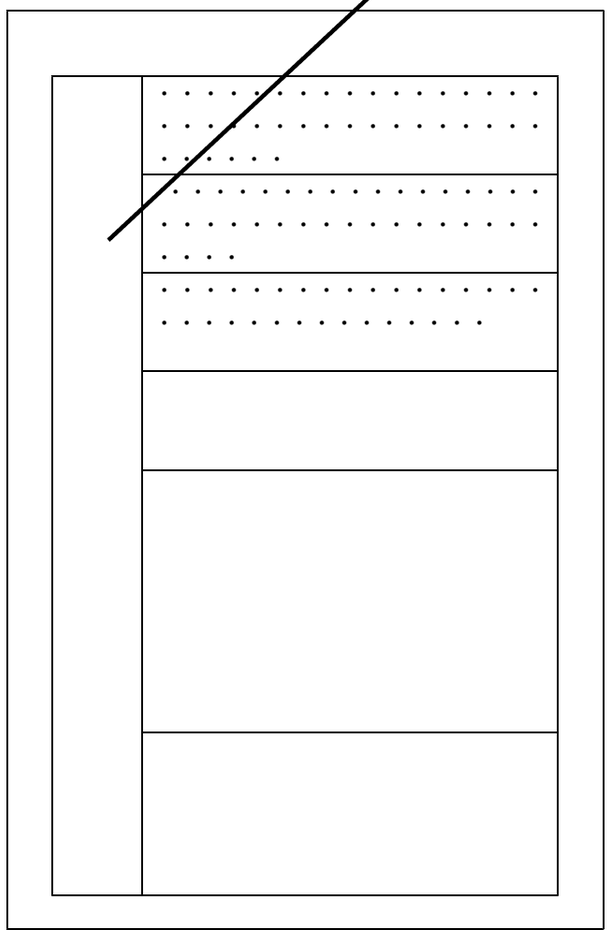


調べ学習が成立するためには
１．自分のテーマを持っていること
２．調べ方・道筋が示されていること
３．他者の学びとの交流ができること
４．より深い学びへの適切な課題提示と支援があることが必要。

３時間のそれぞれの最初に、生徒同士の追究を簡単に交流する中で、１～４を適切 に全体にアドバイスする。何よりも生徒が自分自身 に肯定観を持っていることが大切で、それが他者への肯定観につながる。そういう雰囲気を作りたい。入学したての１年生には、何よりもまず、授業と教師と学習集団に対する信頼感・安心感が必要であり、教師はそれを最大の目標にする必要がある。

1時間目の展開　**▶自己追究の開始**　４５分

ねらい　テーマの歴史的変化について教科書の豊富な資料を使って調べさせる
発　問　選んだテーマのものがどんな風に歴史的に変化してきたか調べてごらん
作　業　変化とその背景を教科書で調べて記入する
留意点　この教科書の豊富な視覚資料を縦横に活用させる。この教科書はそのような学習のために作られている。資料を見つけたら、抜き出してスケッチさせたり、本文を調べたりする



１時間目の展開２　（個別支援）

ねらい　追究に取り組めない生徒を対象に各自の追究を適切な個人支援をする
発　問　（机間巡視しながら取り組めない生徒に）①君はふだん何をする時が好き？
②教科書に同じものがないか探してごらん
作　業　①自分の好きなものを調べる
②そのものを教科書から探す
留意点　丁寧に個別支援する。３年間の学習のスタートだからこそ、一人一人に目を配り声をかける必要がある。「歴史の時間を好きになる」ということは教師を好きになることでもある。
この教科書はイラストや写真が豊富なので、生徒の興味のあるものが資料の中から必ず見つかると思われる。そういう編集方針である。

板書例

めあ　自分のテーマで調べよう
食事の変化
いま　３０年前　６０年前　　１００年～３０００年前
私のテーマ
（　　）
○○さんのテーマ
××さんのテーマ
さあ調べよう
使うもの→教科書

評価の具体例

	１時間目（第３時）	２時間目（第４時）（下位目標）	２時間目（上位目標）
関心意欲	**自分のテーマで積極的に追究できる**	友達の追究のいいところを見つけ自分を高めようとする。	自分の追究を全体のまとめに加わらせようとする。
思考判断		表面的な変化の背景になる大きな歴史変化に気がつく	変化の背景・因果関係まで考えを深められる。
技能表現	**自分のテーマの資料を教科書からみつけ整理できる。**		わかりやすく自己追究をまとめられる。
知識理解			

4 教科書 p10~11 第１章第１節 おもしろ歴史発見 ３．身近なものの歴史を調べよう②その２

本時のねらい　前時に続いて、自分の興味のあるものについて教科書や年表などの資料を使って歴史的変化とその背景を調べ、追究を深め、まとめることができることができる。（２時間分後半）

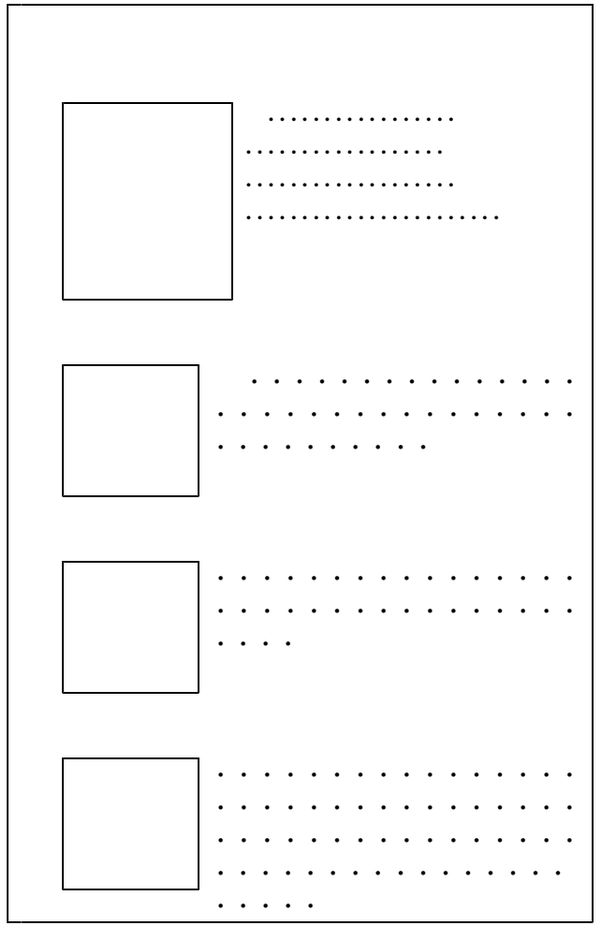
教科書のねらいと活用の仕方　▶自分の選んだテーマで歴史的変化を２時間で調べまとめる。ｐ 10 ～ 11 は調べる資料・調べ方とまとめ方の例として活用する。

2時間目の導入1　**▶追究深化の支援**　最初５分

ねらい
１時間目の追究を簡単に相互交流することで、より深い追究をさせる
発　問　調べたことを簡単に発表してください
留意点　お互いに認め合う雰囲気を作る。より深い追究ができている生徒を選びどこがよいか全体に説明する。進んでいる生徒にはまとめの仕方を最初に教える

2時間目の導入2　**▶まとめへの個別支援**

ねらい
各自の追究を全体にまとめることで、次の「歴史の流れをつかむ」への準備をする
発　問　自己追究が終わって自分なりのまとめができた人から、次の「歴史全体の流れをつかむ」の準備をし、時代のまとまりを考えよう。
作　業　自己追究をまとめ、他の生徒と交流をし、大きな年表にお互いの追究を書き込んでいく。
留意点　グループ内で交流してもいいし、学級全体で自由に自分の追究のまとめを見せあってもよい。（→指導書ｐ　　次時参照）
　まだ、学習集団が成熟していない時期なので進んでいる生徒は教師が全体に向かってよいところをどんどん紹介して、交流を意図的に活発化してあげたい。



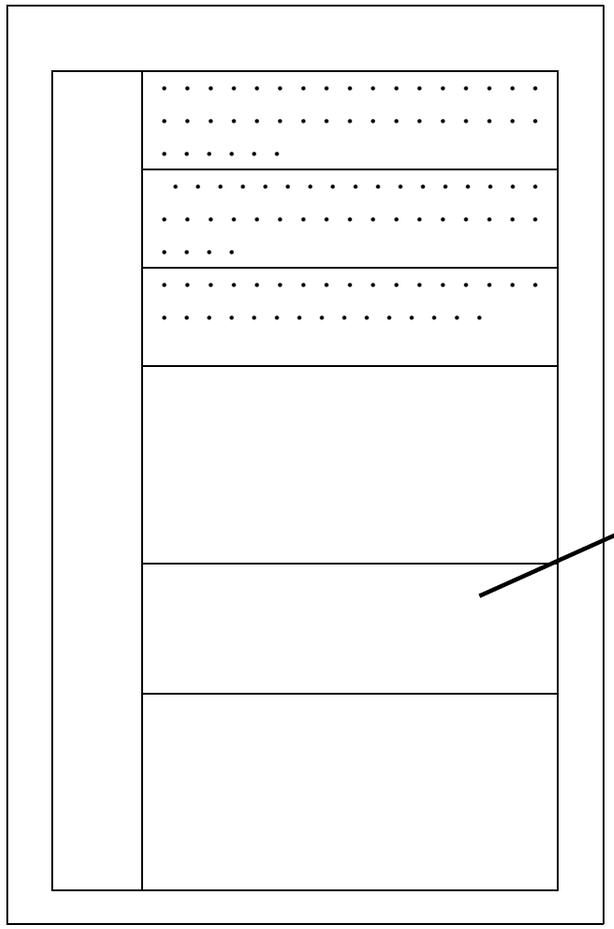
追究能力の個人差をどうするか･･･多くの先生で指導を

本時のような自己追究学習は、生徒の主体的学習として非常に大切である。この教科書は、そういう学習のために作られている。ただし、大切なことは、自己学習は自由な学習だが放任ではないということである。逆に、生徒の自己学習力は放任では全く育たないばかりか、基本的内容の一斉指導すら成立しない授業崩壊の原因となりやすい。
　個別の生徒をよく見て、ていねいに支援したい。ＴＴは最も有効であるし、調べ学習の時は、総合的学習同様、学校全体の先生に質問にいける雰囲気があるとよい。そのような新しい学びの形～学びの共同体～を作る必要がある。

２時間目の展開１　**▶自己追究の深化**　４５分

ねらい　各自の追究を適切な個人支援と相互交流によってもっと深めさせる
発　問　①変化の背景となるできごとを調べてみてわかったこと、考えたことをまとめてごらん。
②○○さんの追究を見てごらん

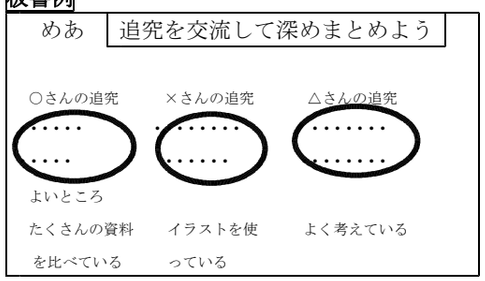
作　業　①変化についてわかったこと・考えたことをまとめる
②友達の追究を見る、お互いに説明しあう
留意点　次の全体まと前提となるので、個人追究は３時間目のはじめまでにだいたい終えるようにさせたい。教科書の追究例のように、大きな時代背景と因果関係まで考えさせたいそのような追究ができている似たようなようなテーマの生徒を紹介し、丁寧に個別支援する。インターネットや図書館を使ってもよいが、その場合、利用の仕方の説明が必要になる。ここではあくまで「歴史の流れをつかむ」ことが目的なのであまり深入りしない。



２時間目の展開２　**▶個人追究のまとめ**

ねらい　ｐ１１の例にならって自己追究をまとめる。次の全体まとめの準備をする。
発　問　テーマをまとめ、発表できるようにしよう
作　業　自己追究をまとめた生徒から、大きな年表に移していく。次時のまとめ方（→指導書ｐ　）のどのやり方でいくか、あらかじめ指示しておく。自由で楽しい雰囲気で進めさせたい。

板書例



評価の具体例

	１時間目（第３時）	２時間目（第４時）（下位目標）	２時間目（上位目標）
関心意欲	自分のテーマで積極的に追究できる	**友達の追究のいいところを見つけ自分を高めようとする。**	**自分の追究を全体のまとめに加わらせようとする。**
思考判断		**表面的な変化の背景になる大きな歴史変化に気がつく**	**変化の背景・因果関係まで考えを深められる。**
技能表現	**自分のテーマの資料を教科書からみつけ整理できる。**		わかりやすく自己追究をまとめられる。
知識理解			

5 教科書 p11~12 第１章 第１節 おもしろ歴史発見　４．大きな時代の移り変わりをとらえよう①

本時のねらい　▶ 第 2･3･4 時で自己追究してきたことをもとに、第５時（１時間目）で教科書の年表の例にならってクラスの追究をまとめ、それを元に第６時（２時間目）で時代の大きなまとまりをつかむ。

教科書のねらいと活用の仕方　Ｐ 11 ～ 12 の年表はまとめ方の例として使う。

展開　**▶全体まとめを完成する**　５０分

ねらい

３時間かけたテーマ追究をクラス全体でまとめ、大きな年表を作り、共通する時代のまとまりをつかむ資料とする。

発　問

自己追究を全体年表に移しましょう

教科書ｐ１２～１３の年表のもっと大きなものをクラス全体で作りましょう

作　業（２つのやり方Ａ・Ｂ・Ｃのどれかで）

Ａ　黒板の大きな年表（年代直線をあらかじめ教師が引いておく）に指名された生徒が自己追究を移す。

Ｂ　グループ（学習班）ごとに全紙模造紙に個人追究を移し、それを黒板に並べる

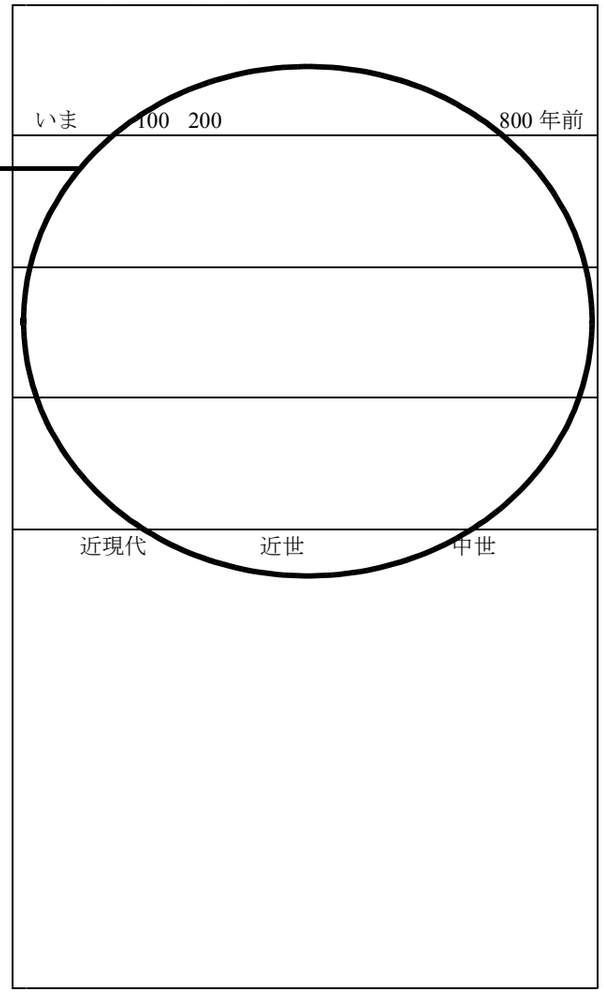
Ｃ　テーマごとに生徒が集まってまず個人追究をまとめ、その中から食事・服飾・遊びなど、いくつかのテーマを抽出して代表が発表してもよい。

留意点

どの場合でも前時に各自のまとめをできるだけ進めておきたい。

ただし、個人差が大きいので、全体まとめに入る際には、自己追究をそこでうち切らせ、いままで調べた範囲の中でよいから全体まとめにしっかり参加させる。個人追究の進度の差はさして問題ではない。

大切なことは、自分なりのスピードで学びを積み重ねているかどうかである。



全体年表・まとめ方のアイディアと工夫

１．かんたんに済ませたい場合

テーマジャンルを３つ程度あらかじめ決めておき、指名した生徒に発表させポイントを板書する。

生徒は前時に決めておき準備させておく。この場合、教師の一方的主導に陥らないよう気をつけたい。

（教師が指名して板書するイラスト）

２．自己追究ワークシートの工夫

自己追究をまとめるとき、（教科書のイラストのように）生徒に選んだテーマの時代変化のポイントになるものを１つづつＢ５程度の紙にわかりやすく書かせ、それをそのまま黒板に貼る

（絵の紙を黒板に貼るイラスト）

３．絵巻物を各自がつくる

生徒は、自己追究をまとめながら、教科書の年表の１テーマの横に長い年表を、絵巻物のように作っていく。Ｂ５の１枚を 100 年として、横につなぐ。本時はその年表を何人かが黒板に貼ることで完成する

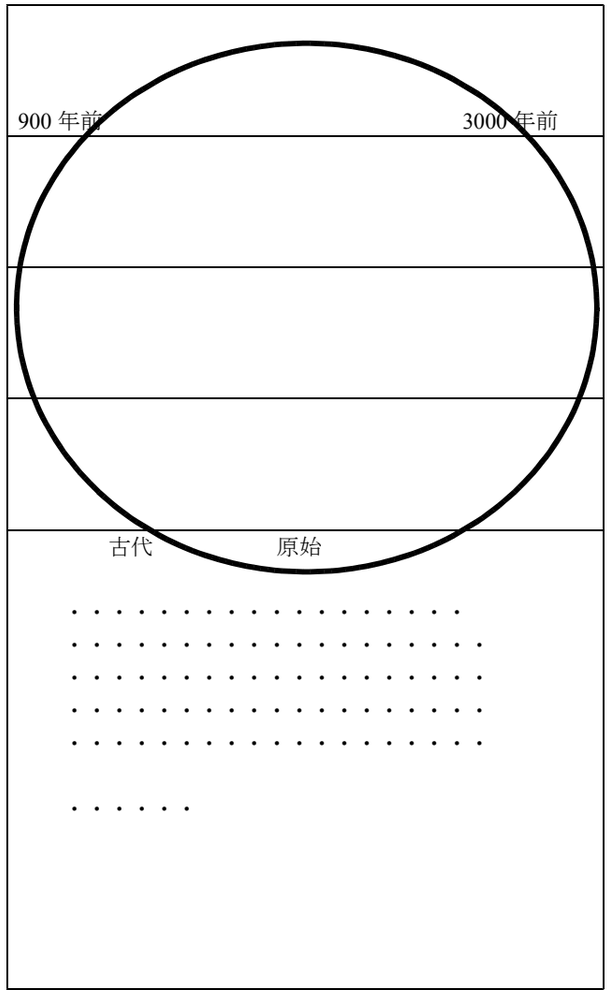
（巻物年表を並べるイラスト）

学習集団づくり･･･クラス全体で一つの学びを作り上げることの大切さ

生徒一人ひとりの興味関心に基づく多面的多角的なさまざまな追究結果の中から、共通する大きな歴史の時代のまとまりをつかむことがねらいであるので、まとめの形はどうあれクラス全体で一つのものを作り上げるという雰囲気を大切にしたい。前時までの自己追究で一人ひとりへの支援がしっかりとしておりさらに追究の交流の積み重ねがあれば、ここの全体まとめが成功する基礎はできている。

いままで自己追究中心であったが、ここで初めて学級集団全体の学びを体験することになる。質の高い学習が今後できるかどうかは、この様な体験の積み重ねの多さにかかっている。和気藹々と作業を進められるといい。

教師と生徒・生徒相互間の親和関係を学習のはじめに作れるかどうかである



評価の具体例（２時間共通）

関心意欲	全体年表の作成に積極的に取り組める
思考判断	全体年表から、大きな時代のまとまりに気づき始める
技能表現	自己追究を全体年表の時系列に移すことができる
知識理解	

板書例　めあて　追究結果をまとめて、時代の大きなまとまりをつかもう

いま　　3000 年前

○○の歴史　・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○○の歴史　・・・・（追究結果）・・・・・・・・・・

○○の歴史　・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○○の歴史　・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○○の歴史　・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○○の歴史　・・・・・・・・・・・・・・・・・・

6 教科書 p11~12 第１章 第１節 おもしろ歴史発見 ４．大きな時代の移り変わりをとらえよう②

本時のねらい　前時にクラスの追究をまとめたものを元に時代の大きなまとまりをつかむ。
それを通して、４時代区分と～時代、西暦という基本的な年代の表し方を身につける。

教科書のねらいと活用の仕方 ▶ 大年表は、実際に前時に作成したものを本時で使うことができれば、そのまま使うが、もし使えなければ教科書の年表を例として使う。できれば下半分の時代区分解説を隠してワークシートとして別刷りで印刷したい。

導入　**大年表を見て、時代のまとまりを考えるきっかけとする**　５分

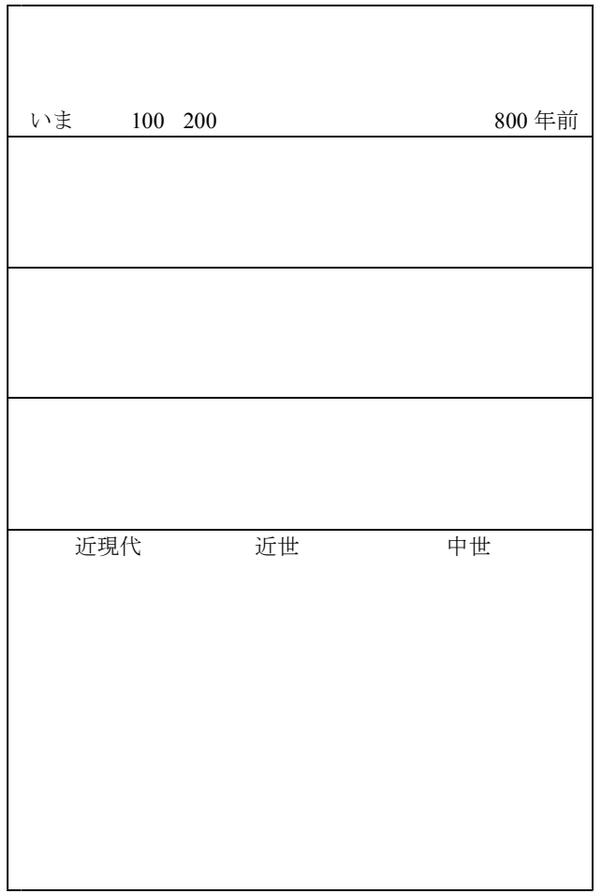
ねらい
大年表を作り、自己追究を持ち寄った結果を見て、共通する時代のまとまりをつかむ視点を持つ。

発　問
すごい年表ができたね。よく眺めてみよう。
ここから、大切なことをみんなで見つけよう。

留意点
前時の年表を使えるのが一番よいが、もし教科書を使う場合は、年表下の４時代区分と～時代は伏せておくとよい。これを自分たちで発見することが大切である。もし、時代区分を既習のこととして生徒が発言した場合は、逆に「近代とはどんなことなの？」と教師から質問を返す。

ここで大切なのは、近代ということばを暗記することでなく、どんな時代変化があったからこの時代区分があるかを自分たちで気がつくことである。

この単元の根本的なねらいに関わることなので、この手順は大切にしたい。歴史を単なる暗記と生徒が感じるか、自分たちで考えて認識するものと思うかの分かれ道である。



大きな時代のまとまりに気づいたとき、どう表現するか

中学１年の生徒に大変高度な表現力を要求している。だからといって、生徒には無理だからと教師が一方的に「近代とはこういうことだ」とか、「６つに分けられて、原始～現代という」などのように、暗記を迫るような授業はやめたい。クラスみんなで作った年表を見て（もし、時間がなければ教科書の年表を見て、食事・服装・人形の３つのジャンルの変遷を同時に眺めたことで）何が見えてくるか、そこを生徒自身が感じ取れるようにしたい。

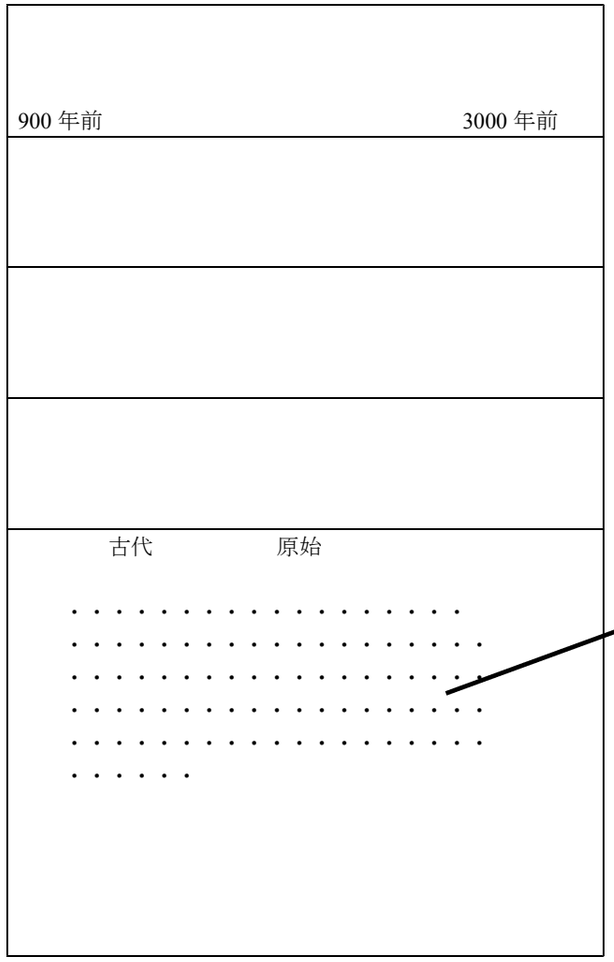
その時代の大きなまとまりの特色は、生徒はうまくことばで表現しにくい。しかし、何かに気づき、うまく表現できないもどかしさを感じている様子さえ見いだせれば、この授業は成功したといえよう。

そのもどかしさに寄り添う形で教師が、言葉を教えていく。「それを『近代』というんだよ。」というように。

暗記ではなく、表現したい認識がまずつくられ、それにことばを与えるという授業でありたい。

展開 ▶ **時代の大きなまとまりに気づく**　２０分

ねらい　多様な個人追究の結果から、時代の大きなまとまりに気づき４時代区分を理解する。
発　問　全体年表を見て気がついたことを話し合おう。
作　業　全体年表をクラス全員で眺め、話し合いによって大きなまとまりを見つけていく
留意点　４つの時代区分に共通する特徴を教師の支援によって気がつくよう、補説する（→指導書Ｐ　）



まとめ ▶**時代区分などの基本を理解する** 25 分

ねらい　４時間全体のまとめとして、歴史とは何か、歴史の流れ、年代表記と時代区分についてしっかり理解させる

発　問
①４つの時代の大きな特色をまとめよう
②～時代についてまとめよう
③西暦・紀元前など時代表記の仕方を説明できるようにしよう

作　業
ノート（ワークシート）に４時代区分を・～時代をまとめ、年代直線を完成させる

留意点　４時代区分・～時代などを一方的に教え込むのではなく、生徒が多様な自己追究を通して発見するというプロセスを大切にしたい。

暦法は宗教的価値の表現であるし、また日本の「～時代」は価値中立的と思われているが、実は政治中心地を時代にした言い方のため中央の通史のみを正史と考える史観に陥りかねない。

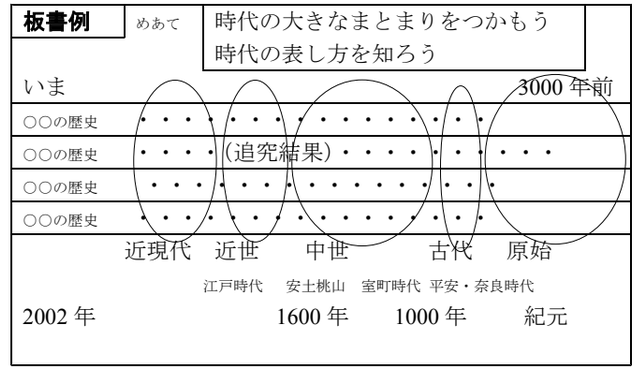
年代表記にも現れる歴史認識の多様な価値を説明し、特定の価値意識の無意識な注入にならないように心がけたい。判断する主体としての生徒の多面的多角的思考を育てることが本単元のねらいである。

それをふまえた上で、西暦紀元・４時代区分・～時代の前後関係と絶対年代との関係は、今後の学習の前提となるので、知っていくべき基礎基本としてきちんと定着させたい。

評価の具体例（２時間共通）

関心意欲	
思考判断	**全体年表から、大きな時代のまとまりを指摘できる**
技能表現	**４時代区分・年代表記法を使って絶対年代を区分し表現できる**　（２時間目）
知識理解	**西暦・４時代区分・～時代を説明できる**　（２時間目）

板書例



7 教科書 p14~15 第１章　第２節 身近な歴史を調べてみよう①オリエンテーション

本時のねらい　身近な地域を対象に、歴史の学び方を学ぶスキル学習を行う。指導書は、追究の手順に従って構成されていて、教科書の配列とは異なる。また、指導書自体も、授業の流れを中心に作ったため、教科書中心の他のページと構成・配列が違う。

教科書のねらいと活用の仕方

教科書は、テーマ設定→追究→追究のまとめ→発表という学習課程の事例として参照する。生徒の自己学習が基本で、教師はこの教科書を使って、生徒の追究を支援する。生徒のアドバイスする資料として活用してほしい。したがって、時数と教科書配列は一致しない。

１.「身近な地域の歴史」の３つの場面設定

▶Ａ　「歴史の流れをつかむ」につづいて、歴史学習全体の導入で行う場合

▶Ｂ　地域の教材に応じて、その教材に対応する時代の単元で行う場合

▶Ｃ　総合的学習の時間の自己追究で行う場合

Ａ・Ｂは教科学習として社会科の単元として行う場合で、「身近な地域の歴史」は２つの時期設定が可能である。Ａは学習の冒頭、地理の身近な地域学習と併せて計画できる。Ｂはその時代の単元で扱うことになるので時期は自由である。

ただし、Ｂの場合でも、地域教材が近現代など通史上の後の時代である場合は、スキル学習だけは歴史学習の早い時期Ａで実施した方がよい。そのほうが、生徒はその後の通史学習で自己追究の経験をたくさん積めるからである。

Ｃは、教科ではなく、総合的学習の時間で行う。全員必修の基礎講座としても、また歴史的なテーマ領域の選択講座の一つとしても設定できる。

２．本指導書の「身近な地域の歴史学習」の流れ

過程	時数・獲得させたい学習スキル
①ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ ↓	第７時　→指導書ｐ 地域史の多様性･具体性に興味を持つ
②ﾃｰﾏ設定 ↓	第８時　→ｐ 地域の歴史上の着目点を知る
③調べ方① ↓	第９時　→ｐ 検索の仕方・複数の資料の比較考察
④調べ方② ↓	第 10 時　→ｐ 非文献資料の検索(ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ･ﾋｱﾘﾝｸﾞ)
⑤自己追究 ↓	第 11 時　→ｐ 準備・計画性・実行力
⑥まとめと 発表	第 12 時　→ｐ プレゼンテーション能力

授業者が、Ａ・Ｃの設定で行う場合はこのままで、Ｂで行う場合は①・②をその地域教材に応じて工夫してください 。

身近な地域の歴史「①ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ」の導入　２０分

ねらい　地域の具体的なふだん接しているものの歴的背景を知り、意外性・多様性に驚きを感じ、身近な歴史に興味を持つ。

発　問　（地域独自の行事・風習など実例を用意し､）どんなものか知っていますか。

作　業　知っていることを話し合い発表する

留意点　教科書は「大念仏」を取り上げている。祭りなどの風習は、親しみやすい。その教材に関する十分な事前準備が必要。導入では、生徒に親しみと驚きをもたらす逸話・歴史的事実を紹介する。地域の人材を活用する方法もある。

教科書の大念仏は静岡県西部で行われている念仏踊だが、地域でも初めてみる生徒はびっくりする。そして、江戸初期以降の大きな歴史的な流れと関連づけられる教材である。それぞれの地域で似たような教材が用意できるはずである。（実例→指導書Ｐ　　）

もし、用意できない場合はこの写真を見て、似たようなことがないか生徒で話し合いをすればよい。必ず何かあるはずである。祭りでなくても、地域の事物（地蔵さま、橋・地名の由来など)、教師が話し合いの幅を広げていく。そして、地域教材を教師も生徒と一緒に探し、学ぶという姿勢を持つことが大切である。

Ｐ１４　上２／３

「身近な地域の歴史①ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ」の展開　２０分

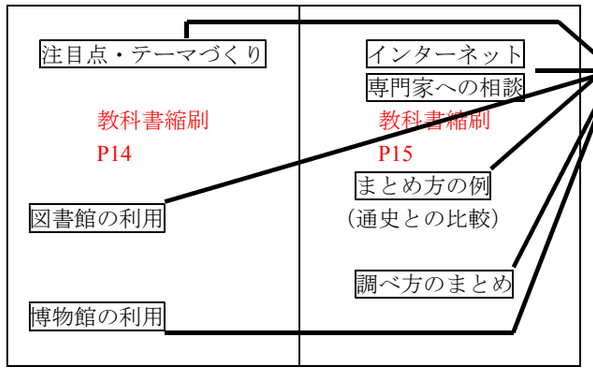
ねらい　導入で紹介した地域教材の歴史的背景を調べた結果と方法を知らせ、自己追究の手だてと目当てを生徒に持たせる

学習活動　教師の説明を聞き、感想を話し合う。
どうやって調べたか疑問と関心を持つ

留意点　地域教材の学習を教師は事前にやっておく。その事前準備そのもの（地域史の本を探す、保護者や同僚に聞いてみる、図書館やインターネットで調べる、詳しい人に聞く→詳しく調べたいテーマができる→こ情報を整理する→まとめて生徒に伝えやすいものにする）という一連の行為そのものが、学習スキルであり、この単元の学習で生徒が体験を通して身につけなければいけないことである。それを生徒に気づかせ、自分もやってみようという気にさせること　がこの展開部のねらいである。

このページは、大念仏を例に、情報検索の仕方・まとめ方の実例を簡略にのせている

したがって展開そのものはあくまでも、自分の地域の教材を対象にする。もし、地域教材の研究準備の時間がないときは、展開として、この教科書を使って大念仏の背景を読みとり、導入でつかんだ生徒自身の学習テーマを教師もともに学習していくこととする。



調べ学習のスキル･･･教師の事前学習そのもの

①情報を手に入れる　**「地域の歴史を知りたい」**
詳しい人に聞く・地域史の本を探す・公民館や図書館に行く
→コミュニケーション能力・マナー

②情報の整理と選別　**「〇〇に興味がある」**
→主体的な学習姿勢

③詳しい情報を追究する**「〇〇をもっと知りたい」**
→博物館・郷土資料館・フィールドワーク
インターネット

④複数の情報を整理・比較・判断する
「こんな見方があるんだ」「反対の解釈もあるんだ」「どっちが正しいのだろう」
→資料の整理（メモ・機器の使用）
→多面的な思考と判断力

⑤追究した情報を伝える
「地域の歴史のおもしろさを相手に伝えたい」
→プレゼンテーション能力

上記のような教師自身の体験を生徒に伝えることがオリエンテーションの目的である。

「身近な地域の歴史①ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ」のまとめ 10 分

ねらいこのページの構成そのものを使って、この時間のまとめとして「身近な地域の学習の仕方のあらまし」を確認するのに使う。

発　問　これから地域の歴史を学んで区のに必要なことをこのページから確認しよう

作　業　教科書の構成を見て、テーマづくり・情報検索・まとめという流れを確認する

留意点　これらの具体的なスキルについては 8・9・10 時で実際に扱っていくことを伝える。この時間はまず、地域の歴史のおもしろさに興味を持つことが第一である・

観点別評価

関心意欲	**地域の歴史のおもしろさにふれ、興味を持つことができる**
思考力	地域の具体的な歴史の背景に大きな歴史変化があることに気づく
資料活用	**地域の歴史調査の方法のあらましについて道筋を理解できる**
知識理解	

板書例

めあて　地域の歴史（〇〇）を調べよう

〇〇について
知っていること
･･････
調べたいこと
･･････

調べ方
１．テーマづくり
２．情報の収集
３．情報の整理と比較
４．さらに詳しく調べる
５．情報に基づく思考判断
６．まとめと説明

8 教科書 p14~20 第１章　第２節　身近な歴史を調べてみよう②テーマづくり

本時のねらい　身近な地域の歴史・調べ学習のスキルとして、テーマ設定の仕方を学ぶ。

教科書のねらいと活用の仕方　▶テーマ設定学習の意義

時代・事象の限定なく自由にテーマを選ぶ場合（場面設定→Ｐ　のＡとＣに多い）、特定の事物に限定して調べる場合（場面設定のＢ）、どちらでも生徒が自分で調べ、多角的多面的な資料にふれて考えていくことが大切である。そうでないと結局は、与えられた暗記すべき通史の確認という、自己追究の名を借りた受け身の学習になってしまう。その自分なりの関わりの基礎となるものがテーマ設定である。どんな形であっても、テーマは与えられるものでなく、自分でつかむものである。

したがって、テーマは、自己追究の過程で新しい疑問が生まれ、より高度なものに発展していくはずである。一つの追究の終わりは次の追究の始まりである。テーマそのものを深化させることが、教師の大切な支援である。

テーマ設定の仕方１･･･身近な地域の歴史の着目点（ＡとＣの場合）

Ｂの場合は、その取り上げるできごとについて、下記の例にならって幅広い着目点をアドバイスする。教師の思い入れの強い内容に生徒を引きずり回すことにならないように注意が必要である。

導入　テーマの素材を発見する　２０分

ねらい　教科書の各ページから、地域に似たようなことがないか探し、テーマのヒントとする

発　問　これらの例を見て、私たちの地域にも似たことがないか話し合ってあげてみよう

作　業　話し合った結果をワークシートに書き出し、特に興味のあることを絞り込む

留意点　教科書の各ページの冒頭が、地域の歴史の素材（テーマのヒント）になっている。また、キャラクターのセリフは自己テーマを導き出すアプローチである。

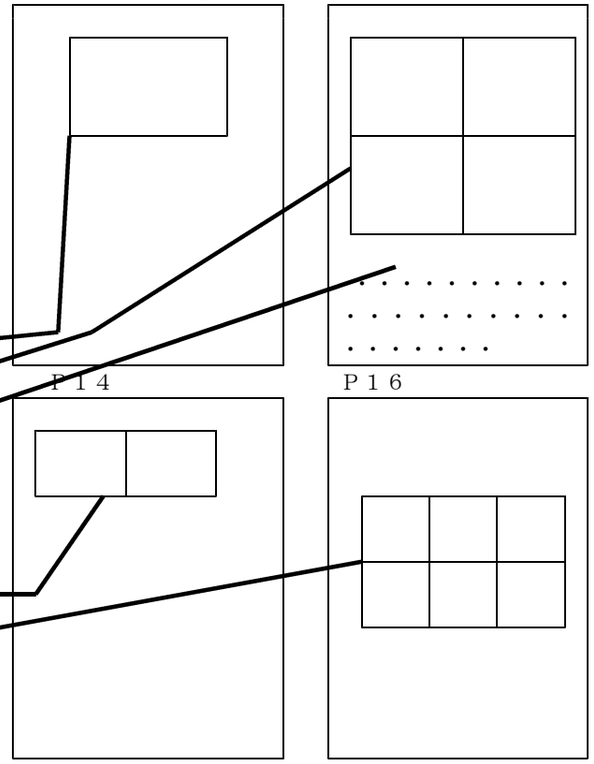
地域の伝統行事・習慣
→どんな意味があるのだろう

昔と今の風景写真
地形図の比較
→どう変化したのだろう

歴史的地名
→共通する地名の背景にあるものは

地域の変わった建造物
→いつの時代になぜできたか

街道と町並み
→どんな交流があったのか



そのほかの着目点～話し合いのヒントとして紹介～

学校の歴史・地域の地名・昔の道といまの道・川の流路の変化・商店街の移り変わり・地域の言い伝え・伝説・お寺や神社の由来・石碑・石像物・地域の特産品・伝統工芸品・地域の民謡・方言・地域のお墓・ゴミ処理の方法・旧国名・郡名に関する地名や会社名・昔からの集落と新しい集落・地域の役場の位置の移り変わり・地域の大事件・地域の境界・地域の寄り合いや会議の種類・地域の消防の仕組み・青年団の有無やしくみ・屋号・結婚・出生・死亡などの儀式・地域の家の造り・地域の料理・結婚する範囲・正月やお盆など年中行事のしきたりなどから、地域で追究できそうなものを選んで、ワークシートに項目を記入して紹介する

テーマ設定の仕方２･･･気づきを学習課題に高める

展開　集団で話し合い、個人追究テーマをつくる　２０分

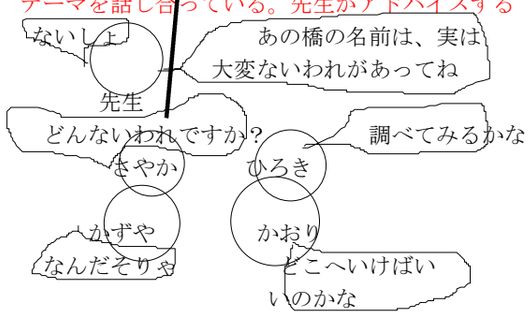
ねらい　小集団で気づきを自由に話し合うことを通して疑問点を出させ、自己追究の学習課題に練り上げる

発　問　気づいたことを、お互いに話し合って疑問点　を出してごらん。それを自己テーマにしよう

作　業　小集団での話し合いをして、学習テーマを作りワークシートに記入する

留意点　このような「練り場」では、小集団が、密度の濃い話し合いができるし、自分のテーマづくりという個別的な課題を、仲間の力で高めることもできる。教師は、グループの間を回りながら、話題に耳を傾け、必要なヒントを与える。このときの教師と生徒との親和的な人間関係が大切である。

イラスト
３０人ほどの学級　４人づつのグループ学習
その中の一つに教科書のキャラクターがいる
４人の生徒が机をあわせて、教科書も見ながら
テーマを話し合っている。先生がアドバイスする



テーマ設定の仕方３
お互いのテーマを知り、自分の見通しを持つ

まとめ　１０分

ねらい　クラスの級友のテーマを交流することで、自分の追究方向を振り返り、似たテーマの生徒同士でやり方を考える

発　問
①自分のテーマを発表してください
②似たテーマの人同士で、どんな風に調べたらよいか考えましょう。

作　業
①黒板のテーマ一覧を見て、似たテーマ同士の生徒とどんな風に調べたらよか考える
②調べ方の疑問（どうすればいいかわからないこと）をワークシートに書き出す

留意点
テーマによって調べ方の内容（次時のスキル学習で扱う）は異なるので、それぞれ次時で扱うことを説明し、見通しを持たせる

なおテーマ一覧は印刷して配布し、教室にも掲示して、いつも意識できるようにする

観点別評価

関心意欲	興味を持ったことから学習テーマをつくることができる
思考力	
資料活用	自分のテーマの追究の見通しを考えることがでらきる
知識理解	

板書例

めあて　自分のテーマを作ろう

クラステーマ一覧

○○さん	･･････	どう調べたら
△さん	･････	いいか
･･･さん	････	
□さん	･･････	
	･････	
	････	

9 教科書 p14~15 第１章　第２節　身近な歴史を調べてみよう③調査の仕方１

本時のねらい　身近な地域の歴史・調べ学習のスキルとして、情報検索の仕方を学ぶ。

教科書のねらいと活用の仕方　▶調べ方学習の意義

民主的な成熟した市民社会・国家・国際社会を担う人間に欠くことのできない能力の一つに公正な歴史認識力がある。公正な歴史認識は、正しい歴史的情報処理能力によって作られる。正しい情報処理能力を身につけることが必要なのである。それが調べ方学習である。

情報処理能力は、①インプット（検索収集）と、②複数の情報の比較・判断と③アウトプット（表現）の３段階がある。「身近な地域の歴史」学習では、第 9･10 時・11 時で、調べ方のスキルとして①情報検索能力を、12 時で③表現力を、実体験を通して身につけることをねらっている。②はこの教科書では「歴史探偵」で扱う。

導入　調べ学習に必要な情報検索方法を探す 15 分

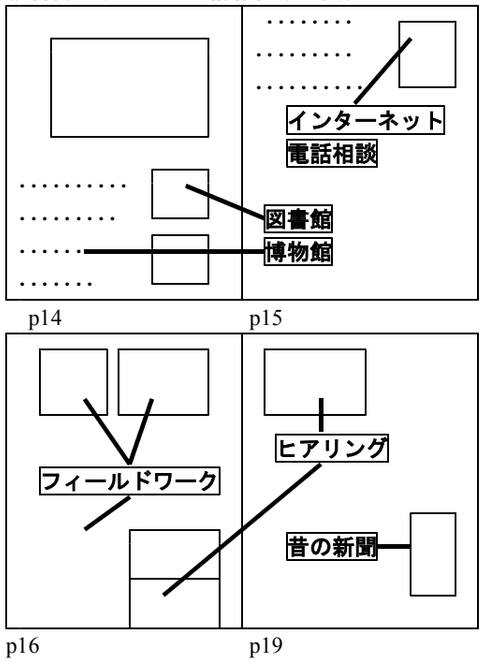
ねらい　自分のテーマの追究に必要な情報に応じた検索方法を選び取ることができる

発　問　前回考えたテーマでこれから調べたいこと調べる方法を発表してください。どうすればいいかみんなで知恵を出し合いましょう。

作　業　テーマ一覧（→ｐ　　）をもとに、クラス全体で各自の調べたいことや方法をどうすればいいかアイディアを出し合う

留意点　ヒントとして、情報の検索の実例を教科書のｐ 14 ～ 20 中の実例から抜き出させる。教科書の通史の記述にテーマの答えそのものを見つける意見に対しては「どうして本当だとわかる」と教師が切り返し、１次情報にさかのぼる必要性に気づかせる。教科書でも何でも情報をうのみにしてはいけないという姿勢をきちんと押さえたい。この検索方法のうち、フィールドワークとヒアリングは次時で扱う。

教科書で取り上げた情報検索の実例



公正な歴史認識の前提となる情報処理能力の体験的修得の大切さ

歴史学とは、さまざまな過去の事実の積み重ねを厳密に検証し、時系列と因果関係でつないでいく学問である。多くの資料（情報）を入手し、それを選択して多角的多面的に考察し、事象と事象との因果関係を判断するという、厳正な情報処理能力によって歴史学は作られていく。

歴史情報は、事実そのものと、体験者が書いたもの（１次史料）、さらに他者や後世の人が伝聞もとに書いたもの（２次・３次史料）に分けられる。歴史研究とは、この厳密な史料批判の積み重ねである。教科書の通史の本文は、この作業の結果できた完成品である。

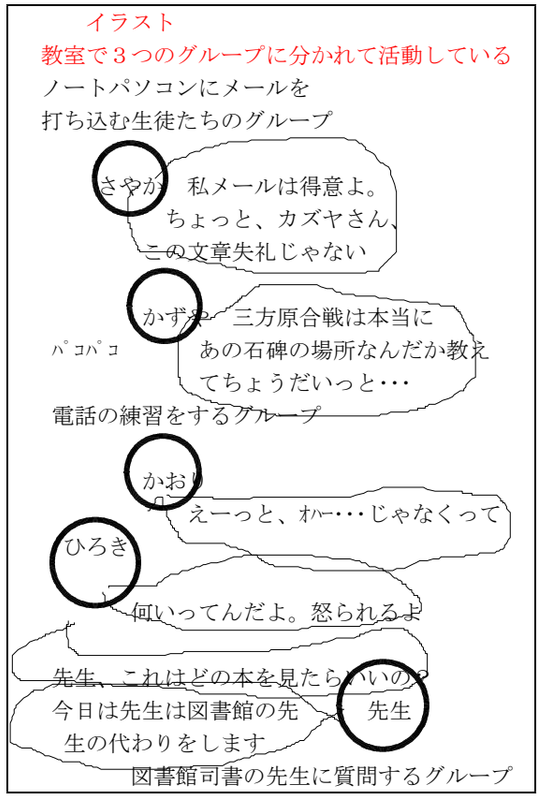
史料批判とは歴史的情報の情報処理のことに他ならない。この教科書は通史部分も含めて、生徒が自ら情報処理をして歴史を主体的に学び取るよう編集されているが、特にこの身近な地域の歴史学習と歴史探偵の２つの単元は、そのねらいの中心として特別に編集された。

したがって、身近な地域の歴史学習では、完成品を注入されるだけに終わりがちな従来の歴史学習でなく、本来の歴史学の手続き＝「正しい情報処理能力」を学んでほしい。これは現代社会に生きる力を学ぶ大変貴重な場所といえる。

公正な歴史認識の前提となる歴史的情報処理能力は、教科書の歴史叙述を一方的に注入することによっては育たない。まして、何らかの価値観を注入するための物語として教科書の歴史叙述があのではない。

情報教育とのすみ分け

インターネットの使い方は技術科で、また電話のかけ方や図書館の使い方などは総合的学習の基礎講座で行っている学校も多いと思われる。一般的な情報処理スキルはそちらで扱うのが当然である
歴史の授業では、歴史情報の処理を対象とするのでテーマに関する質問事項と検索対象の絞り込みが大切な学習能力である。



評価

関心　意欲	積極的に調べられる
思考力	
資料活用	**テーマの課題に沿った情報検索が、きちんと実行できる**
知識理解	知識理解

展開　情報検索方法を体験的に学ぶ　３５分

ねらい　自分のテーマに関して知りたい情報を実際に検索することで、情報検索能力を身につける

発　問

①テーマについて知りたいこと・質問事項をはっきりしよう

②検索方法をフィールドワーク・ヒアリング以から２つ選ぼう

(ｱ)インターネット・e-mail 相談（(ｲ)電話相談

(ｳ)図書館・博物館相談

③実際に検索する準備と練習をしよう

④実際にやってみよう

作　業

①ワークシートに検索事項を絞り込んで書く

②その検索方法を、２つ以上決める

③事前準備と練習をする

④実行する

留意点

今までの教室での一斉授業形態のままだと③④はとてもむつかしい。③までは可能だが、④は、次時までの課題として、放課後に自分たちで行うのが現実的である。

③をできるだけ実際に近いシミュレーションとして行いたい。

ｱ　e-mail　は教室にノートパソコンを持ち込み打ち込ませる。送信はあとで。

ｲ　電話のかけ方を教室でシミュレーションする

ｳ　学校図書館の司書教諭に質問に行かせる
専任でない場合は空き時間でならＴＴで、無理なら放課後に

３つのコース別に資料・材料を教室・図書室に用意し、生徒は３つを自由に移動して体験する

e-mail 相談は、博物館のＨＰ（教科書巻末→Ｐが効果的である。

まとめ　情報検索の経験を振り返る

ねらい　より高いレベルの情報検索ができるよう今回の体験を生かす

発　問　実際に調べた後、反省をワークシートに記入してください

留意点　次時までに生徒は自分で情報検索を行い反省を記入する。これでテーマが深まっていることが大切である。この追究の深まりを受けて実地踏査（フィールドワークとヒアリング）に進む（次時）ことを告げる

10 教科書 p14~20 第１章　第　節　身近な歴史を調べてみよう④調査の仕方２

本時のねらい　前時に続いて情報検索能力のうち、事実そのものの情報や１次史料を取り込むフィールドワークとヒアリングの２つのやり方を学ぶ

教科書のねらいと活用の仕方　▶実地踏査の意義

情報検索能力のうち、フィールドワークやヒアリングは、考古学の発掘と同様、歴史情報そのものを掘り起こす作業で、あらゆる学問の原点である。机上の学習・仮想現実のみに浸りがちな学習を脱却して、事実そのものの豊かな体験から学ぶという学問の基本の姿を学習スキルとしてきちんと学ばせたい。地理分野の「身近な地域の調査」と融合して単元計画を立てることがもっとも効果的である。

実地踏査を授業時間として設定できるのがベストだが、無理なときは事前準備と事後指導の時間として授業を組み立てる。教科書は、実践例を資料として活用するように作られている。

導入　実地踏査の動機付け　5分

ねらい　前時までの自己追究の結果を確認し、実地踏査の必要性を実感させる

発　問　テーマをどの程度調べられたか簡単に発表してください

作　業　自分の追究のようすを簡単に発表する

留意点　お互いに疑問点を出させ、特に教師は追究結果で得られた情報が本当に正しいのか、自分の目で確認したのかという質問を浴びせる.
あらゆる情報をうのみにしないことが大切と指摘し､｢実際に外に出て調べてみ よう、その準備をしよう｣と結ぶ

Ｐ１８	

フィールドワーク事例
（本土決戦期史料の発掘）

フィールドワーク方法
記録のスキル（器機・地図・スケッチ）

ヒアリング方法

史料批判方法
（情報の判断）

記録のスキル
（整理カード）

記録のスキル
（地図に落とす）

展開１　実地調査の計画１　　２０分

ねらい　自分のテーマ追究を深めるために、どんな実地調査が必要か考え計画を立てる

発　問　自分のテーマ追究を自分の目で確かめて進めてください。教科書を参考に何をすればいいか、計画を　　立てましょう。

作　業　教科書を参考にどんな調査をすればいいか考え、校外活動計画の素案を立てる。

留意点　教科書の調査例を参考にする。学校に地域人材リストがあれば是非紹介する。地域の公民館・博物館･郷土資料館の学芸員や社会教育指導主事とはぜひ事前に連絡を取ってほしい。学社連携プログラムがどんどん整備されてきている。発掘への参加活動はその代表である。

博物館の利用

本教科書の３つの体験コーナー（→本文Ｐ　　指導書Ｐ　　）は、それぞれ各地の博物館の学芸員・社会教育指導主事の立てたプランの実践例である。

実地調査のコースの一つとしてぜひ組み入れたい

展開２　地域調査の計画２　２０分

ねらい　実地調査を実行するための実際の準備をする

発　問　大体の活動内容が決まった人から計画書と校外活動届け（形式例下記）を作ろう

作　業　教師の支援を受けながら計画書・活動届けをつくる。

留意点　地形図を有効に活用しコース計画や記録準備をする。時間内で終わらない生徒には個別支援する。訪問先がある場合は、依頼文書を用意する。事前に電話連絡し、アポイントを取る
ヒアリングカードなど記録の整理カードはあらかじめ大量に配布作っておくとよい。（図書の整理カードでよい。図書室にある。）放課後や休日に各自で実施する場合、教科通信や学年通信、PTAだよりを利用し、地域や保護者に協力を依頼するとよい。生徒指導担当や学級担任など学校組織を意識して他の教員と連携して進める姿勢が大切である。安全やマナーの指導も十分しておく。

ヒアリング事例
（本土決戦期史料の発掘）

テーマの発展

Ｐ１９

家族史・事件史・地域史の掘り起こし

ヒアリング・フィールドワーク事例
（空襲体験の掘り起こし）

（板書例）
活動計画書・校外活動届けの記入例

校外活動願い
活動計画

別紙資料（地図）

コースを記入した地図

まとめ　事前指導の徹底　5分

実施に向けての最終注意をする。事故の未然防止・トラブルの対処法をきちんと指導徹底する。実施後のまとめの作成について知らせ、見通しを持たせる。計画書作成が進まない生徒には個別支援する。

評価の具体例

関心意欲	
思考力	テーマ追究にあった地域調査のコースをたてられる。
資料活用	**地域調査の準備ができる 地図・機器を目的に応じて活用する計画を立てられる。**
知識理解	

11 教科書 p14~20 第１章　第２節 身近な歴史を調べてみよう⑤調査の実施

本時のねらい　調べ方学習で学んだことを生かして、自分の立てた計画にしたがって実際に調査活動をすることで、自己追究を深めるとともに、学び方を体験的に身につける。

教科書のねらいと活用　調査の実施場面では、この教科書は、ポータブル図鑑（携帯用の年表・資料集）として活用できるよう編集されている。調査でわからない事象・用語に行き会ったとき、索引から検索する。

設定１

校外まで含んだ調べ学習を授業時間として行う場合（平日午後、帰りの会繰り上げで５校時オープンエンドとして実施する）

活　動　①出発前の注意を確認する
②スタートチェックを受けて出発
（校内でインターネット・図書を調べる生徒もあり）
③活動計画に従って自己追究
④終了後は帰校または帰宅（終了報告は電話で）

留意点　複数の教師がつけるよう、学年・全校体制がとれることが望ましい。全教科で自己追究学習を同時に単元設定し、「教科学習自己追究の日」をもうけることで可能になる。時数にゆとりがあれば、給食カットにより全日で設定できる。（あらかじめ年間計画に組み込む）。

事故発生時の緊急対応を学校体制としてとっておく。

イラスト

博物館を訪問しているところ
社会教育指導主事が説明

地名の愛称標識を調べているところ

畑の人に聞き取りをしているところ
（ビデオで撮影）

地図を見ながら歩いているところ

実地調査～野外学習～の時間設定の問題解決

総合的学習の自己追究で野外に出るときは、おそらく全校で日課を変更するので問題はない。社会科の教科学習でこれを行う場合、最大のネックは５０分という単位時間と全校横並びの日課である。中学では、１授業時間で１学級規模での実施という枠の制限が自己追究を限定してしまう。

現状では、５時限の日に帰りの会を繰り上げ実施し５校時をオープンエンドにして実施する方法（学年・学校の共通理解が必要）もある。が、社会科単独ではどうしても無理が出る。選択教科の時間としてなら容易にクリアできるが、同じ時間に他のクラスでは別の教科をくんでいる必修教科の時間としての設定は、「教科学習自己追究の日・時間」を全校体制で設定するのが解決方向ではないだろうか。全校で授業改善の研修を進める中で共通理解を図りたい。

イラスト

インターネット検索をしている生徒

図書室で司書の先生と相談している生徒

教室で記録カードを整理している生徒

どうまとめるか考えている生徒

設定２

校内だけの調べ活動に限定するとき
（通常の５０分授業で実施できる。校外活動は自由時間に各自実施する。）

活　動　①電話インタビュー・インターネット検索・図書検索・地域講師の授業などの校内で設定可能な調査コースの中で活動する。校外活動の準備や結果整理を教室で進める生徒もある。
②調査が終わった生徒から教室で記録整理、まとめ

留意点　教室をホームベースとして、パソコン教室・図書室などで活動する。他教室の授業に迷惑をかけないというマナー指導を徹底する。また、他の職員に実施の事前に連絡しておく。

多数の情報の整理・比較と判断

浜松大空襲ヒアリング整理の結果（一部）

選択社会科での実践。100 以上の体験証言が集まった。

同じ空襲で、同じ被害現場の証言でも、人によって伝える事実が異なっている。どの角度から、どう見たのか。どんな経験をしたのか。そのとき、証言者はどんな状態だったのか。複数の証言を集めることで、事実の多面的多角的認識を作ることができる。これが公正な歴史認識につながっていく。事実の複雑さ、多様さに耐えられる思考力・判断力を身につける必要がある。そういう調べ学習を体験させたい。

評価の具体例

関心意欲	主体的に地域調査を実施できる
思考力	多様な情報を整理し、多角的に事実を認識できる。
資料活用	**地域調査を実施できる 目的に応じてさまざまなアプローチをし、多様な情報を取り込める。**
知識理解	

12 教科書 p14~20 第１章　第２節 身近な歴史を調べてみよう⑥調査のまとめ

本時のねらい　調査学習の結果をまとめることで多面的多角的な思考力を身につけ、わかったことを発表することで、表現力を身につける。

教科書のねらいと活用

多様な資料を整理して多面的多角的に事実認識をすることの訓練としては、「歴史探偵」（本文→Ｐ　、指導書→Ｐ　　）が有効で、この単元と併せて実施すれば効果的である。また、わかったことの表現スキルの育成については、「先生からの提案①～⑤」（→本文Ｐ　　指導書Ｐ　　）を参照されたい。

ここでは、身近な地域の歴史単元のまとめとして、学級内交流発表会を紹介する。教科書は各ページの図版がまとめ方の例となる。

調査のまとめと報告の仕方　**レポートづくり**

準備　自己追究が終わった生徒からまとめに入る。

まとめ方のプロセス

①「レポートの書き方」を学ぶ

②情報を整理し、レポートをつくる

③発表の仕方を考える

④発表資料をつくる

留意点

レポートの書き方は、社会科にとどまらずすべての教科の基礎になるので、総合的学習の時間の基礎講座として行うのが望ましい。学校全体で共通するｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ資料を用意してあるとよい。なお、社会科としてそれに上乗せする独自のものがあればなおよい。いずれにしても今後の学習の基礎になるのでぜひきちんと指導したい。

プレゼンテーションの仕方　**交流発表会の準備と実践**

発表の仕方には、

レポートだけの文書発表とする

掲示物・ＯＨＰ・プレゼンテーションソフトで発表説明する

紙芝居　　歴史新聞　ジオラマ模型　　歴史劇

パネルディスカッションやディベート

など、さまざまなプレゼンテーションがあるが、自分の認識を述べる基本はレポート作成である。これを全員が机上に展示する。さらに、教室に各コーナーを作って、　レポートの発表説明や紙芝居など、「お店」を開き、生徒は教室内を自由に移動して研究結果を交流する。

なお、準備の時間は、授業で設定できなければ、発表の日程にゆとりを持たせて放課後や家庭で行えばよい。

掲示物の作り方の参考例として教科書の図が活用できる。なお、全紙複写機があれば、レポートをそのままプレゼンテーション用掲示物にでき、作業時間と労力を思考を深めることに回すことができる。

レポートの書き方

テーマを決めよう

今までの授業内容を振り返り、興味のあったところをしぼる。

の内容を整理し、自分でまとめる。

くわからないところ、実際にどうか調べてみたいところを見つける

なぜ、～なのか」など、Why・What・How がついたテーマをつくる

関係する項目をサブタイトルにする。

調べよう

1．授業で習ったこと・教科書の内容をテーマに関係したところをさがしてまとめる

2．関係する資料をさがす。

a 本で･･･閲覧室・図書館→司書の人に相談する

b 周りの人・専門家･･･インタビューやアンケート

c インターネットで

d 新聞・テレビのニュースで

3．今までわかっていることを自分でまとめたことと、調べて新しくわかったことを比べる

まとめよう

① テーマ

②テーマ設定の理由（なぜ調べたか）

③調べた内容（自分で項目を立てる。資料やイラスト・写真やグラフなどを工夫

④まとめ

⑤参考資料名

教科書のまとめ図の作成事例

Ｐ１５のまとめ図	Ｐ１７のまとめ図
Ｐ１９のまとめ文	Ｐ２０のまとめ図

調査活動学習の正しい評価･･･①観点別絶対評価の基準の明確化

レポートの内容がきちんとして初めて、他者への説明（プレゼンテーション）が可能になる。とかくこのような学習活動の場合、きれいで派手な掲示物づくりと発表の一生懸命さに流れやすく、がんばっていればよしとする傾向があるので注意が必要である。

大切なことは、適切な情報処理を身につけ、それによって歴史認識を深められたかということである。したがって、生徒は、基本的に全員レポートを作成し、テーマに対する追究内容の深さが評価の基本となる。プレゼンテーション能力は評価項目のほんの一部にすぎない。

レポートは、４つの観点ごとに３段階で評価する方法がある。観点の基準は、各評価項目（別表記載）にしたがって、あらかじめ上位・中位・下位到達目標を絶対目標として設定する。

交流発表会の様子	ポートフォリオ評価のための学習ファイル
イラスト ・ＯＨＰを使って発表する人 ・プロジェクタでプレゼンテーションする人 ・ 多くの机上にレポート、作成物 ・ 見る人 ・ 紙芝居をやる人 ・ 掲示物を指さしながら説明する人 ・ 先生もうなずきながら見ている	神久呂２０００とレポート イラスト 「調べるとき、勇気を出してがんばったもん。レポートはきれいにかけなかったけど･･･」 レポートを綴じ込む生徒 レポートのいいところをほめる先生 「たくさんの人にヒアリングしたね だから、技能と思考が深まったんだ。 だから、そこがＡだよ。」

調査活動学習の正しい評価②･･･ポートフォリオ評価で

観点別評価基準がしっかりしていないと、「発表はがんばったがテストはとれない、やっぱりテストだね」（そのテストは知識理解偏重になっている）とか、「ノートを２４色カラーペンで書けば成績が上がる」というような間違った事態になる。

生きる力を身につける学習が成立するためには、４つの学力をバランスよく身につけて行くことが大切で、授業者が知識理解偏重の歴史授業から脱却することとあわせて、評価手段を変えることを抜きにして考えられない。現在の暗記型一斉テストで計られている学力は社会科の目標のほんの一部である。

生徒がその単元の学びを通して４つの観点の力の何が身に付き、次に何をどうがんばれかいいかが分かるということが大切である。まして、点数で順位付けされる学力のみが真の学力ではない。課題解決のための認識の深まりと技能の修得が、本人が自覚できる形で身に付いていくことが真の学力「生きる力」である。

本単元では第１節の年表づくりと第２節のレポートの内容が評価資料であり、このよいところを本人と教師が認めあってファイルしていくことが大切である。この積み重ねは本人が自分を肯定的にとらえ、自分を伸ばす力となっていく。これがポートフォリオ評価である。

今後の学びの基礎となり、生徒の意欲を持続させられるかどうかの分かれ道になるところである。どんなあらわれを評価するか、を研修したい。

写真・図版解説

卒業アルバム写真について。浜松市立伊佐見（いさみ）小学校（1875 年創立）という地方都市近郊の農村部の小学校である。

Ａは 2000（平成 12）年３月卒業生の修学旅行時。（全３クラス中の１クラスのみ。）

Ｂは 1970（昭和 45）年３月卒業の写真。（全３クラス中の１クラスのみ）

Ｃは 1941（昭和 16）年３月卒業の写真。男女・職員全員集合写真。翌年度から国民学校に変わった。

①一クラスの人数

Ａは上限４０人学級　Ｂは 45 人。学年総数を編成基準上限で割ってクラス数を決める。1960 年頃までは 55 ～ 60 人が上限だった。Ｃは男子組女子組の２クラス。男子 67 人女子 77 人

②服装・髪型・靴

服装　小学校で現在も制服（学童服・セーラー服）が残っている地域も多い。学童服（洋服）は日中戦争のころ農村部にも普及した。それまでは紺絣（こんがすり）・はかまが一般的だった。Ｃはまだ一部残っている。

髪型　Ｃは「男子丸刈り、女子おかっぱ」で、中学には最近までかなり残っていた。Ｂは男子が丸刈りでないが短い借り上げである。現在の Ａ も自由に見えて無意識の規制や流行という「同調圧力」がさぐれる。なお、「男子学童帽」はＢの時期まで義務教育では一般的だった。帽子は社会秩序のあり方の標識である。

靴　学童服同様、農村部に普及したのが日中戦争のころである。まだ草鞋も多い。Ｂは「白の運動靴」なお、ランドセルの普及も視点にしてほしい。Ｃはドーラン、Ｂ・Ａがランドセルである。

③身長・体重（１２歳平均）

		身長		体重	
		男子	女子	男子	女子
A	1999	145.3	147.1	39.3	40.0
B	1970	140.5	142.9	33.8	35.7
C	1930	131.4	131.3	28.4	28.5

Ｃの６年生の体格は現在の小学校３年生に当たる。

④校舎　Ｃの木造校舎が鉄筋化されたのは 1967 年。

⑤男女別の並び

Ａは現在男女混合名簿が使われ、朝礼も混合並びである。Ｂは共学クラスだが、男女別名簿、集合は男女別並びが当たり前だった。Ｃは完全別学である。

⑥修学旅行の有無・行き先

Ａは２泊３日東京（ディズニーランドを含む）Ｂは日帰りで静岡・焼津（伊勢参宮が戦後廃止されてからその前年まで実施していなかった。）Ｃは 2 泊 3 日伊勢参宮･名古屋。

⑦卒業アルバムの有無･価格

Ａは全カラーＡ４変形版 50P　約 1 万 5 千円。Ｂは全白黒 B5 15P 価格不明 C は集合記念写真のみ。

⑧写真がカラーか白黒か

ｶﾗｰ写真が一般化するのは 70 年代から。もっと前からあったが色あせしやすく､記念写真は白黒だった。

⑨表情⑩姿勢⑪先生の雰囲気

1941 年３月１日の国民学校令は「皇国ノ精神ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ国民ノ基礎的錬成ヲ為ス」とある。「練る」「気合いを入れる」「背筋を伸ばす」「きちんとする」「がんばる」「けじめを付ける」などが、その後の学校教育の無意識なバックグラウンドとして戦後も長く続いた。

⑫先生のひげ

明治以後の近代ジェンダー秩序の象徴としてひげと帽子がある。現在はむしろ反秩序の象徴であろう。

⑬卒業後の進路

Ａは、農村部のこの小学校でも都市の私立中学に進学する生徒が見られるようになってきた。Ｂは全員が地元の公立中学へ進学。Ｃは数人が旧制中学・実業学校（商業・工業・農蚕学校）・高等女学校に進学、他はほとんどは併設の国民学校高等科（二年）に進んだ後農業を継いだ。

⑭給食・弁当（→指導書Ｐ　　）

⑮授業の内容

Ａは 1992 ～ 2002 年の前指導要領の教育課程（ゆとり重視・生活科実施）Ｂは 1962 ～ 1972 年の指導要領（系統重視）高度成長に対応していた。Ｃは修身・国語・国史・地理・算数・理科・体操・武道・音楽・習字・図画工作・裁縫家事（女子）実業がこの年から国民学校となり国民科・理数科・体練科・芸能科・実業科となった。総力戦体制である。

⑯登下校の方法

Ｃに始まった集団登校が、Ｂも続いていた。Ａは自由登校。自由になったのはつい最近である。

参考文献

Ｃの時代の資料　「少年時代」藤子不二雄（中公）妹尾河童「少年Ｈ」（講談社）山中亘「ボクラ小国民」（講談社）「間違いだらけの少年Ｈ」（辺境社）など多数

Ａ～Ｃ全般の資料は、各学校の１００年史が地域の図書館に必ずあると思うので参考にしてください。

写真・図版解説

学校給食の変化

学校給食は 1889 年山形県鶴岡町私立忠愛小学校で貧困児童対象に実施したのが最初。大正期に都市部で一般化しはじめた。（東京府で管内小学校にパン給食実施。昭和恐慌期の 1932（昭和７）年国庫補助制度確立。戦時下の統制経済下で都市部２００万の生徒に特別配給給食を実施。戦後アメリカやユニセフの援助で都市部でパン主食の完全給食が実施され、独立後は国庫補助による学校給食法に受け継がれた。76 年以降米あまりを受けて米飯給食が正式化された奨励された。欧米では 19 世紀後半の産業革命中期から実施されている国が多い。

①給食の形（ランチ皿など）⑮デザートの有無

給食作業の効率化のためランチ皿が使われている地域も多い。現代の箱膳である。給食員の労働量の大変さと併せて考えさせたい。

容器の安全性も問題になっている。高度成長を支えたプラスチック文明という時代背景を考えさせたい。デザートなどの多様化は、プラスチック容器の普及と、流通の発展が背景にある。

②栄養素の変化③カロリー⑦主食と副食のバランス⑭健康状態

現代　１日に必要なカロリーは約 1600kcal､その 1/3 を給食で確保することになっている。戦後初期の必要カロリー維持を主目的に主食中心だった時期から、バランスのとれた栄養基準に改定されてきた。

中世　戦場の武士は 3000kcal 摂取したといわれる。前時代に比べ豊かになり、脂質・糖分が増えた。

古代　貴族の食事はゆたかに見えるが貢租品のため保存食が多く塩分が高い。酒の飲み過ぎもあって非常に健康に悪かった。平安期に仏教信仰による肉食禁忌が生まれるとバランスは完全に崩れた。庶民は栄養価は低いが玄米食でビタミンが確保され肉食禁忌が薄かったことはより健康的だったと考えられる。

原始　栄養失調でできる骨の年輪が発見されている。縄文の採集経済は、大陸に比べ豊かな日本の森と海を前提に長く持続したが、生活は厳しかった。

③食材の原産地　⑧食材をつくる人

現代は輸入品が席巻している。特に野菜も中国から多く入っている。中近世は基本的に自給だが、近世の城下町を市場とする近郊野菜が生まれた。なお、戦国末期の南蛮貿易による新しい野菜は日本の食生活を大きく変えている。

⑤調理の仕方

教科書の視覚資料で探させる。現代は高度成長期のガス火力の導入が食文化を大きく変えた。それ以前は、食料油と調味料が普及した中世後期から一般の食事はあまり変わっていない。さらにそれ以前は、味付けは塩、加熱は蒸す、煮るだけであり、原始から中世前期までさして変わっていない。

⑥和食と洋食

近代の洋食を大きく地方に広げたのが、軍隊と学校である。（→近代ｐ　　）　近世の江戸では夜泣きそばやすしなどのはファーストフードが生まれている。　現在の和食は中世後期に成立した。古代の乳製品がなぜ途絶えたかは、仏教禁忌のほかに、消化酵素の問題もあるのではないか。

⑨流通の仕方

どう運んだかを考えさせる。現在の飛行機・トラックの冷凍高速度輸送・近代の鉄道・近世の帆船。それ以前の牛馬・徒歩。それぞれ食事の内容を限定する条件である。

⑩誰が調理したか

近現代の性別役割分業をジェンダー（社会的に意図された性差別）の視点としてぜひ考えさせたい。主婦は近代に限定された存在である。

⑪食器の素材と形

現代のプラスチック容器（高度成長以後）・近代の洋食器のの普及・中近世陶器（瀬戸物・唐津（すえき　はじき）もの・有田もの）の歴史・それ以前の須恵器・土師器 などを調べる視点とさせたい。

⑫食べる姿勢・隊形⑬食べる場所

教科書の視覚資料で家族でテーブルを囲む時の座る位置、戦前の農家の食事の座、座り方（いすか、正座か、立て膝か、あぐらか）などを調べたい。ちなみに中世までは片足立て膝座りが多い。

⑯片づけ

残飯の有無、処理の仕方を調べさせる。現代の過剰な残飯は、きわめて歴史上例外的な現象である。自分の学校の給食残飯と比較させたい。

⑰食事の回数

ローマの貴族の食事（回数満腹になると戻してまた食べる）日本の貴族の宴会にもふれながら、時代の違いに気づかせる。３回食は中世後期から。

文章解説

p9「食事の違いは社会の変化･･･」

食事の歴史は、生産力の発展と生産物の分配のあり方という社会構成史の発見につながる。４時代区分をもっとも発見しやすい。

参考文献

ホームページ食物の歴史

http://www.joho-gakushu.or.jp/kids/gika/data

写真・図版解説

p10 ①ウルトラマン人形

そのほかのアニメキャラクターなどとともに生徒の話題を広げやすい。実物（教師自身のこだわりの一品）を用意すると盛り上がる。

P10②青い目の人形

この人形は　　のもの。校区に現存していないか、またその記録が沿革師に記載されていないかを調べるのもおもしろい追究になる。現在８０歳以上の人なら、人形の歓迎式典を覚えている可能性がある。 どう処分されたか、逆になぜ保存されたかを調べると深まる。

P10③ひな人形

写真は　＊編集部・・・・・・　　のもの。

現在のひな人形と比べるとよい。

P10④ひとがた

写真は　＊編集部・・・・・　　のもの。

P11服装イラスト

中学１年生の生徒作品である。学校図書室にある服飾事典を調べ、自分でイラストにした。したがって、生徒が服装を調べるとき、同じ１年生の作品例として紹介し、これをそのまま写させないようにする。イラストの画風は生徒の個性が出るし、同年代の生徒の作品は生徒の意欲化につながる。

文章解説

P10高度成長以後の流行・・・

このころ生まれたたくさんのアニメのストーリーや場面設定は、高度成長期以後の現代日本社会の投影である。「子供の遊びの歴史」として一般化して調べてもよい。（→本文 P27・62・95「この時代の子供」）「遊び」の歴史は、その起源となったことに重大な意味があることが多く、それは歴史の意外性の発見につながる。

P10「青い目の人形は」・・・

排日移民法が成立するなど、第１次大戦後日米対立の雰囲気が高まる中で、日米友好を願い宣教師シドニーギューリックが募金を集め 1927 年１万３千体のセルロイド人形を送った。人形は、名前が付けられ、手作りの服を着て、パスポートを持っていた。日本側で橋渡しになったのが経済界の重鎮渋沢栄一である。日本全国の小学校に送られ、大歓迎された。

日本からは返礼として高価な手作りの市松人形が58 体送られている。

これらの人形は日米戦争が始まると同時に、処分されていった。現在日本全国で３００体あまりの保存が確認されている。

P10　ひいな遊び

現在の雛祭りは江戸中期の平和な時代に一般庶民の遊びとして定着した。もともとは、災いを逃れて無事に成長することを祈る真剣ないのりである。これが儀式から通過儀礼となり、娯楽化した。七五三も同じである。

災いや汚れをほかのものに乗り移らせることは、古代は一般的に行われている。紫式部日記には、彰子出産の安産祈願にもののけをより移らせる「ヨリマシ」が登場する。

古代ゲルマンでは、「春の儀式」として捕虜や奴隷を神への生け贄として池に投げ込む記録が残っており、北海周辺の泥炭層からその遺体が発見される。

イギリスの歴史教育では、導入「What is history?」として、この遺骨の正体をいろいろな角度から考えさせて追究する内容が教材化されている。

P11服装の歴史

食事と並んで、服飾の歴史は社会秩序の変遷がはっきり現れる。

①人々の支配、被支配という権力関係の標識
②職業の社会的分業関係の標識
③身体的性差を社会的な役割分業に固定するジェンダーの標識
④成年と老人・子供を区分する標識
⑤血統・家系・身分の標識

など、多面的な観点から歴史をとらえる視角となる。また、素材や染色、生産方法からは生産力の発展や交易に気づく視点にもなる。（蝦夷錦→Ｐ 117 や産業革命→Ｐ 142）

P11 の教科書のまとめ例の文章にはそのさまざまな気づきの入り口が示されている。この教科書の豊富な視覚資料を十分活用してほしい。

参考文献

紫式部日記　岩波文庫 P12
http://village.infoweb.ne.jp/

写真・図版解説

p11服装の歴史のまとめの図

まとめ例として紹介する。まとめ文は、追究の仕方のヒントとして参照する。この生徒は服飾の歴史を調べることが、背景にある大きな歴史的変化に気づくことにつながっていることを指摘して、生徒の自己追究の深まりを促す。この文を丸写しにすることにならないよう注意する。

なお、このイラストそのものを資料として取り上げる場合、以下の視点に気づかせたい。また、このイラストの原図を教科書から探させる追究方法もある。

① 100 年前　明治の男性
帽子だけが洋装になったことの意味を考える。
ひげを伸ばす背景になる意識は何か。
② 300 年前　江戸時代の町人
職業と身分が一体化し、見てすぐ分かるようにパターン化されていること
③ 800 年前と 1000 年前（鎌倉・室町と平安）武士と貴族の生活・価値観の違い
④ 1200 年前（奈良時代）　大陸文化との共通点。なぜ共通なのか。
⑤入れ墨・まがたま・白の服はなぜか。

文章解説

p11先生のことば「・・・自分の興味あるものを調べよう・・・なぜ変化したのか考えよう」

この時間のねらいである。

資料は、この教科書の資料から探す。いろいろなテーマに対応できるよう、さまざまな角度からの視覚資料が載せられている。特に、日常生活の様子の変遷が見て取れるように、教科書の図版が作られているので、「旅の絵本」「ウォーリーを探せ」のように各時代の資料ページを追ってテーマの事例を探してほしい。例えば、「履き物の歴史」ならば、p22 のくつ・p70 のはだし・p113 のわらじ p201 の軍靴などが発見できる。

追究テーマ例と追究の仕方・深め方

子供の遊び・家の造り・乗り物の歴史・武器の歴史・動物（牛・馬・犬・猫・にわとり）の歴史・音楽の歴史・トイレの歴史・庭の歴史・鉄の歴史・水の歴史など。

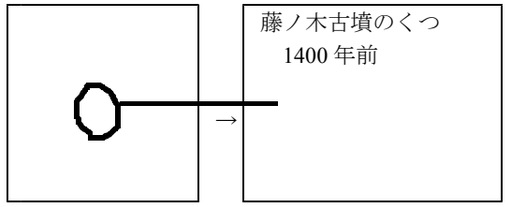
視覚資料から、事物の歴史的変化を発見したら、今度はその理由と背景を考える。周辺の資料や本文からヒントを探し、自分で因果関係を考えられる。

ただし、背景となる理由の追究という一歩高度な追究へ進むには、教師が視点を教えアドバイスしてあげないと無理なことが多い。

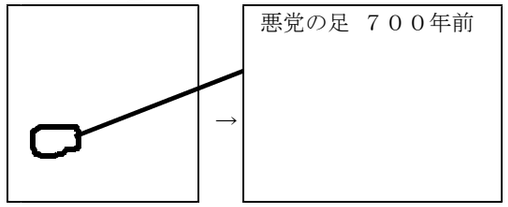
教師が適切な支援をすることで、生徒が自分で学んでいくという編集になっている。

なお、教科書から発見した事例をＢ５程度の上にどんどん拡大して移させていくと、次時の大年表作成に簡単に応用できる。

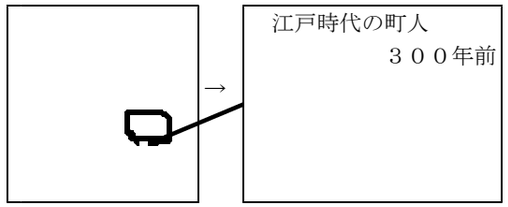
Ｐ２２の図



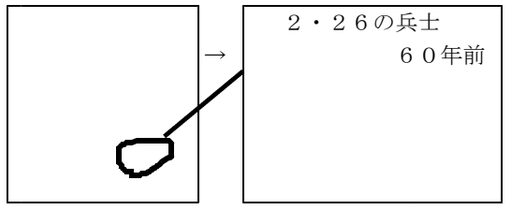
Ｐ７０の図



Ｐ１１３の図



Ｐ２０１の写真



指導書Ｐ　　の３つのまとめ方のアイディアのうち２がこれであり、これを１００年１枚で横につないでいけば３の絵巻物になる。

参考文献

黒田日出男　「姿としぐさの日本史」平凡社
安野光雅「旅の絵本」福音館書店
ﾏｰﾁﾝ ﾊﾝﾄﾞﾌｫｰﾄﾞ「ウォーリーを探せ」フレーベル館
黒羽清隆「生活史で学ぶ日本の歴史」地歴社
〃　「十五年戦争史序説」三省堂

写真・図版解説

P12･P13の大年表

中学１年生の実際のイラスト作品である。完成例として生徒に紹介し、これをそのまま利用するのは作る時間がないときだけにしたい。その場合も、年表下段の時代区分は伏せておき、生徒にそのまま覚えさせるような指導はしない。

生徒の身近なところから歴史を発見し、それを抽象的認識に広げていくという手順を大切にする。

時系列の年代直線を、現在からさかのぼる形で生徒に示し、生徒が各自追究した事物が何年前にどうだったかを年表に書き込んでいく。

この際（→指導書Ｐ　　Ｐ　　）

１．生徒をあらかじめ指名し、発表内容を教師が板書する。

２．生徒は自己追究のさい、発見したことをＢ５ほどの大きさに書き写しておき、それを黒板に貼る

３．各自が絵巻物をつくり、それを黒板に貼る

　の３つのやり方が考えられる。

また、(→指導書Ｐ　　)

A．直接黒板に写すほかに、

Ｂ．グループごとに模造紙に写す

Ｃ．テーマごとに集まってまとめた後黒板に写す

のまとめ方がある。

いずれにしても、次時もこの大年表が使えるように、授業後に残すか、次時の最初にすぐ再び作れる形を取りたい。１－Ａ以外はそれが可能である。

１－Ａでやった場合は、同じ内容をＢ４でプリントして次時に配布するか、もともと年表直線だけ印刷したものをワークシート（下記例参照）として配布し、板書された大年表を生徒が各自写すようにすればよい。

文章解説

P13の先生のことば「大きな年表にまとめよう」

この単元でねらっていることは、

①導入・一斉学習→②課題把握・自己追究テーマ設定→③自己追究→④相互交流→⑤まとめと自己の学びの振り返り（リフレクション）→次の課題へ

という、一つの単元の学びの形を体験することで、学び方のスキルを身につけることでもある。

この５・６時限は、④相互交流と⑤まとめである。授業が盛り上がらなかったら①～③のどこかに失敗があったか、④⑤の前提となる学習集団づくり・人間関係づくりに未熟なものがあるからである。

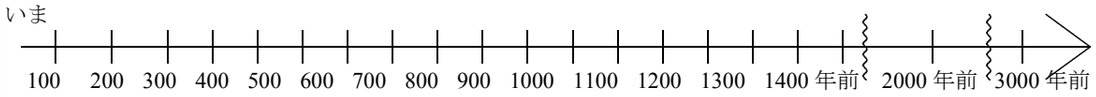
参考文献

斉藤喜博「授業の展開」国土社

澁澤文隆「地理のおもしろ授業づくり」明治図書

ワークシート例

大きな時代の移り変わりを調べよう　　１年　　組　　番　氏名



の歴史

の歴史

の歴史

の歴史

全体を見て気づいたこと

写真・図版解説

P12～P13の大年表

前時の授業で完成した、そのクラスで完成させた大年表を使用する。各種テーマごとの歴史が横に並ぶ。これを縦の列で見つめて、時代ごとの共通する特色を見つけだす。オーケストラの譜面のように、各パートが重なり合って、時代の響きを作り出す。その音を聞き取るわけである。

文章解説

P12大きな時代の移り変わりをとらえよう

この授業でやろうとしていることは、生徒一人ひとりがそれぞれ興味を持った多様なテーマを、絵画などの非言語表現情報を中心に集約することで、時代の移り変わりを多様な視点から総体として写し取るということである。

歴史学の方法論でいうと、このやり方は「社会史」という認識手法につながる。

従来の歴史学は文献資料中心に政治史、さらにその土台となる経済史のみを分析対象にしがちだった。その反省から、1980 年代から文化史や民俗史など、幅広い日常の歴史、さらには人間の表層の意識の下層にある無意識の世界観や行動･･･例えば「あの世」「下界」「外界」観念や、日常の「しぐさ」の変遷を絵画など非文献資料から探る歴史学が、歴史の流れをよりゆたかに多様に描き出す方法として登場してきた。これが社会史である。

この教科書が、教科書本文の歴史叙述はできるだけ短くして資料を豊富にしたのは、本文以外の非言語情報がより豊かに歴史を伝えうると考えているからである。生徒は、五感を使って歴史を感じ取ってほしい。教師は、生徒が歴史事象をより豊かに感じ取れるよう、また、感じたことをさまざまな角度から眺め、考え、自分の力で表現できるよう、視点やスキルを支援していただきたい。

P12　原始・古代・中世・近世・近代・現代の６つの時代区分

この年表の左はし（近現代）に「人間」、右端（原始）に「自然」と板書すると、生徒は６時代区分の意味が理解しやすい。原始ほど、人間は自然に支配され、非合理な力に左右されていた。近代は、逆に合理的な世界観で自然を克服し、支配していった時代である。そしてその中間に、古代・中世・近世がある。

時代が近代に近づくにつれ、人間は超人間的な自然神信仰から離れていく。人間と自然との力が逆転したのが近世・近代だが、その時代認識は映画「もののけ姫」の世界といえば、多くの生徒が理解するのではないだろうか。

現代は、自然と人間との関係をもう一度捉え直さなければいけなくなった時代である。地球環境問題は近代合理主義の価値観（近代の自然克服を善とする考え方）を、相対化し、新しい価値観を生み出すことを人類に迫っているといえよう。

近代合理主義の価値観が支配的だった時期は中世は暗黒時代といわれた。社会史の発展は中世が暗黒ではなく、豊かで多様な人間の営みにあふれた時代だったことを明らかにし始めている。

現代に生きる人々の歴史的課題が近代を相対化するほどに、時代が進んだということだろう。

６時代区分を自分の目で感じ取るということに授業手法には、そのような現代的課題に歴史的な認識をもとに積極的に考え取り組む人間を育てるべきだという認識が背景にある。

P13　年代の表し方のいろいろ

あらゆる時代表記は、それが受け入れられている社会の支配的価値観の表現である。

西暦はキリスト教社会の価値基準であり、イスラム文化圏ではこれに対してイスラム歴（西暦 622 年が元年。西暦 2002 年は 1380 年となる）を使用することが自らのアイデンティティの証明となる。戦前の日本は「国体明徴」のために、皇紀（神話上の神武天皇即位、西暦 B.C.660 が元年。西暦 2002 年は 2662 年）を使用した時代があった。

キリスト生誕を元年と考える西暦もまた、価値中立な絶対年代ではない。数直線とちがって西暦年表に０年は存在しないのである。したがって、０世紀もなく、21 世紀は 2001 年からということになる。この非合理さは、日本の現在の元号と同様である。（平成元年と昭和 64 年とは同じ年であり、元号がまたがるときの年数が計算できなくなる。）改元が何度も行われた明治以前は民衆は元号よりも干支法で時を表現していた。

その社会の支配者は「時の表現」をまず支配しようとした。東アジアの華夷秩序は、中国皇帝の年号の使用をアジアの冊封国に強制した。

この認識に立てば、現在の元号法はこの国の「国民主権」の理念が、現実的な運用がどんなものかを自ずと明らかにする。

なお、A.D.はラテン語 Anno Domini（In the year of the Lord 主の年）　B.C.は Before Christ（キリスト以前）の意。

参考文献

「日本社会の歴史」網野義彦　岩波書店

映画「もののけ姫」ｽﾀｼﾞｵｼﾞﾌﾞﾘ制作　宮崎駿監督

写真・図版解説

p14　遠州大念仏

遠州（遠江国＝静岡県西部）に現在も広く伝わる行事。７・８月の初盆（今年１年間で死者の出た家）の家は、お盆の行事の一つとして、この大念仏を呼ぶ。

大念仏は、数十人が一組となって、笛と念仏歌に合わせて太鼓を踊るように「きる」（太鼓の皮の面をたたかずに、なぞるように振り落とし、側面の枠をこつこつとたたく）。

死者の霊を弔うもの悲しい念仏歌は、初盆の家族の悲しみを現在も癒すのであろう。

この念仏組は、遠州近郷の各村落の若者組の組織が、現在は保存会と名前を変えて、今も数多く続いている。夏が近づくと毎晩練習をし、お盆の時期は毎晩、近在の村々まで出かけて大念仏を演じ、お布施をいただくのである。

大念仏が始まると、近所の子供たちもその家の庭先に集まる。施主の家は、念仏組の若者に酒肴を振る舞うと同時に、集まってきた子供たちにもお菓子を配るのである。

お盆の習俗としての存在理由のほかに、田舎歌舞伎や祭礼と同じく、演じる側の娯楽の要素も大きいと思われる。

しかし、やはり単なる娯楽だけでなく、死者を思う家族の悲しみの癒しが根底に色濃く流れている。念仏を演じる若者は、施主の庭先では、酒肴を振る舞われている間も、いっさい笑い声や声高な会話をしない。しかし、念仏組が去っていく行列の最後には、おかめとひょっとこが軽妙な踊りをして、残されたものに笑いを残していく。その役割も組の中で決まっているのである。

親族の死に対する悲しみ、悲しみを乗り越える笑い、死の悲しみから距離がある人たちにとっては楽しい娯楽、とさまざまな要素が絶妙なバランスで配合された不思議な行事である。

それぞれの地域に残る伝統的行事や習俗は、どれもこのような絶妙な存在理由があるからこそ、今も残っているのであろう。

その行事の意味と、歴史的な経緯を探ると、背景に世の中全体の大きな歴史の流れと、その時代を生きた無数の人々の喜びや悲しみが必ず見えてくるはずである。

文章解説

p14図書館の受付には･･･

公立図書館の整備はかなり進んだが、問題は学校図書館である。

現在の中学校は、まだまだ放課後生徒が個別自由に学習活動をする時間も場所も用意しないシステムになっている。放課後の学校図書館は、無人の本の倉庫になっている学校が多いのではないか。。

この単元で試みている生徒の自己追究学習は、これでは不可能なのである。

図書館が生きて活動するには、専任司書の存在が不可欠である。1996 年の学校図書館法改正で 2002 年度末までに司書教諭の完全配置がうたわれたが、問題は司書教諭を定数法の外にして専任化できるかどうかである。つまり人数を増やせるかどうかである。従来の人員で、授業と学級と校務分掌と部活動をそのまま行う教師が司書教諭を兼任しても、図書館は倉庫のままである。

p14　学芸員という専門の人がいて･･･

博物館の資料収集・展示などを専門的に行う人。

博物館法の資格が必要。各博物館にいる専門家である。博物館法の改正により、文科省が認定するしくみに変わった。発掘など博物館の日常業務でかなり専門的にていっぱいで、生徒の自己追究に対してふだんからじっくり相談に乗れるという状態にはないことが多い。

学校の教育活動と、公民館の生涯学習講座や博物館など社会教育とをつなぐ役割（学社連携）をしているのが、社会教育指導主事である。現在、かなりの地方教育委員会で現職教員が社会教育指導主事となって博物館や図書館などで働いている。

学芸員よりも、社会教育指導主事の方が学校現場に精通していて、生徒の自己追究活動設定には協力してもらいやすい。単元構想を立てる段階で、地域の博物館や教育委員会に連絡して、社会教育指導主事といっしょに計画を進めるとよい。

p15電話やe-mailでの相談

歴史民俗博物館など、多くの博物館で mail 相談を受け付けている。図書室同様、学校のパソコンの管理のあり方がどうなっているかが問題となる。パソコン教室で集中管理する場合、昼休み・放課後の一般開放ができる状態にしていくこと、専任教員がつけることかやはり課題であろう。図書室にインターネット接続ができるパソコンがプリンタとともに設置されていることも大切である。

なお、浜松市博物館では「わくわく博物館」というホームページを立ち上げ、学社連携の先進的な活動をしている。

参考文献

ホームページ　わくわく博物館
http://www.mac.ac./wakuwaku

写真・図版解説

p16写真　終戦直後（左）と現在（右）の三方原台地および地形図・右下まとめ図

浜松市北部の三方原台地の開拓の歴史は、日本近代史の縮図とでもいうべき歴史を見いだすことができる。

強酸性で水が得にくい洪積台地である三方原は長い間不毛の草地だった。この開拓は A 明治維新期に、徳川旧幕臣が豪農の支援を得て士族授産の一環として入植した時期　B　大正から昭和初期、農村改良運動の一環として大規模開拓が実施された時期　C　戦後緊急食料増産対策と復員者・空襲被害者救済策として大規模開拓が行われた時期の３つである。

A は武士は失敗離散したが、近隣の豪農たちは一部で成功し、お茶の輸出までこぎ着けている。明治維新をになった草奔・豪農層である。

注目すべきはＢで、昭和恐慌期に県農林課の地方官僚と村民が協力して、天竜川にから５０㎞の灌漑水路をひき、600 ﾍｸﾀｰﾙの水田を作り小作人を救済しようという計画で、国有林だった三方原原野の払い下げまで決定し、実行を待つだけとなった。当時は開拓音頭が作られ、地域をあげてこの大計画に盛り上がった。いわば日本のニューディールである。

しかし、この計画は 1931 年９月の満州事変勃発によって潰え去った。浜松飛行連隊を持つ陸軍が、満州と似ているこの原野を爆撃演習場にするために払い下げを辞めさせたのである。そのため、払い下げは中止され、1945 年８月の敗戦まで爆撃場として利用された。P18 の写真のような軍事施設が各所に作られ、軍都浜松は地方都市としては突出した回数の攻撃を受け壊滅した。

1945 年の敗戦後、満州からの引揚者や空襲被害者のために、この爆撃場が払い下げられた。Ｂの計画に従って直交した道路と耕地、防風林をもつ農地が計画された。全国から理想に燃えた若者が入植してきた。キリスト教の信徒グループ、満州からの農本主義者、共産主義者などが、それぞれ同士的結合を保って水のない辛苦に耐えて台地を切り開いていった。1968 年国営三方原用水の完成によって、この開拓はようやく軌道に乗り始め、現在は豊かな農地になっている。

満州事変に始まる日本の侵略戦争が、やむを得ない選択だったのかどうかという大きな問いの答えを、この三方原の開拓史は示しているといえないだろうか。似たような事例は必ずどの地域でも見つかると思われる。

文章解説

P16地形図の読みとり　①地形図に色を塗る

沖積平野では、自然堤防とその間の後背湿地との違いに気がつくことが多い。昔の街道は後背湿地は通らない。また、川の流路変更にも気がつく。

②気になる地名に赤丸

例えば左記の三方原台地には「白昭（はくしょ）」「愛隣（あいりん）」「共栄（きょうえい）」という字（あざ）がある。ちょっと周辺とは違ったニュアンスのある響きで、地元の人に聞いたところ、白昭は満蒙開拓団の引揚者の入植地で地名は満州の入植地に由来する。愛隣はキリスト教信徒、共栄は社会主義者の入植地であった。

③道や川・鉄道をたどる

古代の官道は直線である。条里制遺構とともにその復元がまたれている。鉄道の路線は、明治期の地域住民の反対などの歴史に行き当たることが多い。

P17歴史的な地名　ほかにもいろいろあるよ。

中世･･･荘界・旁示（荘園の境界）堀之内・土居・館（領主居館）門田・前田・佃・御正作（領主直営田）○○名（みょう）・下司（げす）・公文（くもん）など。中世地名はなまって、現在は音が違って地元の人も意味が分かりにくくなっている場合が多い。推理のおもしろさがある。

ワークシート例

身近な地域の歴史　　自己追究テーマを作ろう

１年　組　番氏名

1.地域でおもしろそうな場所･モノをあげよう

・

・

・

2　お互いに知っていること、気づいたことを話し合って、自分の追究したいテーマを作ろう。

ﾒﾓ

私のテーマ

3

.どう調べたらいいか方法を考えて書き出そう

参考文献

地方史研究協議会「地方史研究必携」岩波書店
岩崎卓也ほか「考古学ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸｽ 1･2」雄山閣
足利健亮「景観から歴史を読む」NHK 出版
平岡昭利ほか「地図で読む百年」古今書院

写真・図版解説

P18　なぞの土まんじゅう

Ｐ　　の三方原台地の旧爆撃場だった農家の敷地内にある。コンクリートの半球体で直径約 10m。
戦後この土地に入植した地主が、現在は倉庫として使っている。

本土決戦用の爆撃標的とも、飛行機を隠す掩体壕ともいわれるが詳しいことはわからない。

p18　なぞのコンクリート

三方原台地のふもとの沖積平野にある。直径３ｍたかさ１ｍほどの半円筒形。本土決戦用のトーチカと呼ばれる。

浜松市と遠州灘は、本土決戦の米軍上陸予想地点であり、終戦間際には大部隊が緊急編成されて、竹藪に戦車が隠されたり、各地に要塞陣地が作られていた。沖縄戦同様根こそぎ動員も計画されていたようである。しかし、その資料は終戦と同時にすべて焼却されていて、作戦の実体は全く分かっていない。この２つもその遺跡である。

p19新聞記事　大きな被害を受けましたが･･･

新聞記事の読み方は、この空襲記事のように大本営発表だけに気をつければいいのではない。

同じ事件の報道でも新聞社によって全く異なる。また、報道記事の間違いもかなりある。

第１時（→指導書ｐ　　）ワークシート例

卒業アルバムから調べたこと 1年　組　番氏名

2002　３人の時代　　３人の思い出　　世の中のできごと

1960

1940　私が興味があって調べたいことは

文章解説

p18フィールドワーク・ヒアリング

史料は、カードに作成年月・作成者・用紙種類・大きさ・表題・内容を記録する。整理番号をつけ、所蔵者が保存しやすいような状態にして返却する。カードは、後でデータベース化するのが基本である（〇〇所蔵××関係資料）。文書資料は重要なものはマクロレンズを使って接写撮影し、内容は原稿用紙に写し取る。

ヒアリングはテープで保存し、後で文字になおしていく。文字を起こすには大変な労力を伴うが必要な仕事である。本人の記憶には思いこみによる間違いが多いものであり、それを周辺の記録とつきあわせて、裏付けをしっかりとる必要がある。

p19さらに歴史を掘り起こそう

「母の記録」「〇〇の思い出」などはいずれも大切な近現代史料である。また、戦争体験の聞き取り調査をまとめるとか、阪神大震災の手記を集めるなども貴重な時代の証言となる。

各地の空襲の記録は、その地域の空襲を記録する会によって記録が作られている。いずれも、関係者の意識的な努力によって初めて記録となっていくのである。

第９時（→指導書ｐ　　）ワークシート・板書例

１．私のテーマ

２．わからないこと・調べたいこと
①　　②

３．情報の検索先

①［　　］について

②［　　］について

４．反省

５．今後調べたいこと

参考文献

熊田亘「新聞の読み方上達法」ほるぷ出版

身近な地域の歴史の豊かな展開１

身近な地域の歴史学習は、指導書ｐ　　で述べたように、歴史学習の冒頭だけでなく、地域教材の内容に応じて、通史のどこで行ってもかまわない。

ここでは、指導要領の４時代区分に応じて一般的に考えられそうな地域題材を順に紹介する。

あわせて､北海道・沖縄で地域の歴史を扱う場合、および部落差別問題と身近な地域の歴史学習、ジェンダーとの関わりなど、体験的なスキル学習として押さえなければいけない課題について項目ごとに説明したい。

▶各時代ごとの「身近な地域の歴史」の設定例①
原始・古代の場合･･･ヤジリを拾いに行こう

単元全体の導入で行う

①文化財基本台帳で遺跡を調べる(博物館か教育委員会に聞く)
・どんな地域にも必ず原始古代の事物はある。
・ないところはないと言うこと自体が資料になる

② 遺跡に実際に行ってみる
・縄文遺跡の場合は、石器の表採が可能

③教室に持ち込む

④ 自分たちで行かせる。採集・記録・考察の手順と方法を教え、自分たちでやらせる。

⑤石器から分かる生活を考えさせる
（ここから、自己追究へ）

黒曜石の石刃で、紙をすぱっと切ると「おお」と歓声が上がる。歴史全体の導入としても使える。

古墳を探そう・土器の音を聞こうも可能。須恵器と土師器の破片を手に入れて（博物館で貸してもらえるし、地域よってはけっこう表採できる。破片どうしをぶつけて音を聞かせる。当時の生活を想像しやすい。

前方後円墳は、どんな小さいものでもヤマト王権との関係を考える貴重な教材になる。地域によっては**官符木簡**や**万葉集東歌・条里制遺構**も使える。

▶各時代ごとの「身近な地域の歴史」の設定例②
中世の場合･･･中世の村の風景を復元しよう

中世の簡単な通史の確認のあと、展開部で行う

①地籍図（土地台帳。古いものを字切り簿（あざき）という）を役所に行って手に入れる

②近代・近世の起源を持つもの（由緒書きや地誌で簡単に　確認できる）を消去する
中世以前に由来のある地名が残る

③できれば検地帳や荘園絵図があるともっとよい。
近世初期に起源のある地名が確認できる。
登場する地名を地籍簿から確認する

④実際に聞き取りをしてその地名を探す･･･生徒が自分の祖父母に聞いてくる→一覧にまとめる
（これが意外と残っている。。土地のお年寄りに聞くと､「ああ『カクシダ』ね、あそこずら。(遠州弁)」と言って小さな谷間を教えてくれる。

⑤当時の村を想像復元してイラストにしていく

↓旧地籍簿から中世の館を復元･･･浜松市博物館作成資料

高度成長で前近代の風景が急速に失われている。。それでも、近世の記録はわりとよく残っていて、すぐ探せる。しかしもう一つ前の前近世つまり中世は、ちょうど映画「もののけ姫」の森の世界のような、古層を探すおもしろさがある。

中世はそれこそ、「中央の正史」が存在しない、地域独自の歴史でしか歴史を語れない時代のようである。中央の記録に残った大名や戦争を取り上げるのでなく、ふだんの村の姿を探すおもしろさをぜひ単元の展開部で扱ってみたい。

▶各時代ごとの「身近な地域の歴史」の設定例③
近世の場合･･･地域の祭りの内容と意味を探る

幕藩体制まで、江戸時代の基本を学んだあとで、江戸時代の農村（町人）の様子の単元として特設で行う。

①秋祭り・田の神祭り・初午（はつうま）など地域の行事を選んで調べる

②祭りの流れを知る（参加した生徒に発表させる）

③その流れの意味を調べる（地域で聞き取り）

④祭りについてどういう記録が残っているか調べる

⑤江戸時代の地域の文書を探す(博物館･図書館)

⑥地域に住む人たちの江戸時代の生活をまとめる

農村部の祭りは、近世中期に現在のように定式化したものが多い。また、近世の村落文書は多くの地域で残っている。現在の私たちの生活様式や習慣、考え方や価値観までもが､この時代から続いている。

（→指導書ｐ　　へ）

身近な地域の歴史の豊かな展開２

▶各時代ごとの「身近な地域の歴史」の設定例④近現代の例･･･ありとあらゆるものが

近代の戦争史･･･忠魂碑・戦争体験の聞き取り
近代産業史･･･水車跡調べ(動力の歴史を探れます)
交通史･･･地域の鉄道･道路･トンネル･橋の歴史
学校史･･･学制によって設立された小学校はその地域の近代そのものを地域で追える。
（→指導書ｐ　　）
、それぞれの地域にあるいろいろなものを使って、展開を豊富にできる。最初の「おもしろ歴史発見」の対極として、歴史学習全体のまとめとして学習の最後に生徒一人一人が自分で見つけたテーマを追究するのがよい。

▶　北海道での身近な地域の歴史学習

北海道　札幌の先生に

生徒が自己追究として北海道を学ぶとき、どういう支援が必要か、を記述。
全国の先生方の視野が広がるように記述を

▶ 沖縄での身近な地域の歴史学習

沖縄の先生に

生徒が自己追究として沖縄を学ぶとき、どういう支援が必要か、を記述。
全国の先生方の視野が広がるように記述を

参考文献

身近な地域の歴史の豊かな展開３

▶　部落差別問題と身近な地域の歴史学習

部落差別問題と現実的に関わる地域での地域の歴史追究で、配慮しなければいけないこと、生徒の自己追究できちんと支援・指導すべきこと
＊解放同盟・全解連・同和会の立場で校閲を
＊人権教育の専門家の現場の先生に

▶ジェンダーと身近な地域の歴史学習

ジェンダー（社会的に意図された性差別）の視点は、今後の歴史学習の新しい視角として指導する側がぜひ正しい認識をしておく必要がある。

ジェンダーは男女の身体的性差（セクシュアリティ）とは違う。ジェンダーとは、この性差を表面的な理由にして、生産様式の発展段階の照応して個人の生き方を特定の役割分業に固定するしくみで、通常この分業には権力関係が伴う。

産業革命以後の近代社会では、初期のスラム的状態を抜け出すと、男子は生産行為（単純賃労働）女子は再生産行為（家事労働）という役割分業が固定するのが一般的になった。そして、生産を代表する男子が、女子を支配する形で単婚小家族が再生産の基礎的単位となった。フランス革命で人権を認められたのは、自由な市民ではなくて単婚小家族の支配者たる成人男性だった。

戦前の日本では、戸主制度のもとで生産と軍事・政治経済的権力の一切が戸主男性に集中し、女性は全くの無権利におかれた。他の地域に比べて、この性別役割分業の極端さは、近世封建制に起源があると考えられている。

戦後の日本は、単婚小家族中心となり、男子は生産労働、女子は専業主婦・補助労働という分業が固定的になった。このシステムは、男子終身雇用制・年功賃金の日本的経営と結びついて高度成長を可能にしたのである。

他の先進工業国では、1980 年代から近代的性別役割分業を基礎におく社会システムから、男女共同参画型社会に移行し始めているが、日本の場合、三歳児神話・母性神話が強いこと、税制・年金のしくみが性に対し中立的でないことが大きなネックになって移行が遅れている。現在の役割分業は決して歴史的に永遠に続いてきたものでなく、きわめて時代限定的な「歴史的」なものなのである。

中学生が、身近な物事から歴史を発見し追究しようとするとき、一端このジェンダーバイアス（性役割の偏り意識）から自由になって、価値自由な立場からあらゆるものごとを眺めようとすることが大変大切である。そのためには、支援する教師がそういう視点を示唆してあげる必要がある。

参考文献

瀬地山角「東アジアの家父長制～ジェンダーの比較社会学～」徑草書房